

令和6年度
事業報告

社会福祉法人緑樹会

— 目 次 —

◆法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
◆総合福祉センター緑樹苑	
＊介護老人福祉施設緑樹苑	
・介護老人福祉施設緑樹苑・・・・・・・・	10
・緑樹苑短期入所（ショートステイ）・・	17
・緑樹苑給食センター・・・・・・・・	21
＊在宅サービスセンター	
・緑樹苑デイサービスセンター・・	27
・緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）・・	37
・緑樹苑居宅介護支援事業所・・	44
・沖縄市地域包括支援センター西部北・・	51
・みどり学童クラブ・・・・・・・・	59
◆ケアハウスはいびすかす・・・・・・・・	65
◆ケアハウスていんさぐぬ花・・・・・・・・	78

法人本部 事業報告

1. 総括

感染対策委員会方針に沿って、感染対策委員会を隔週開催し、各事業所における感染状況や感染者発生時の対応等を共有した。

アクションプラン 2027 に基づき、中期収支計画、人材育成・確保、生産性の向上に向けて各実施項目に取り組んだ。また、各部署へアクションプランの理解と確実な実施を必要に応じて都度説明を行った。

特養施設長等の育成を図るため、施設長等人事の内示を上半期で行うと共に、各施設における課題共有及び下半期での解決取り組み実施を指示した。また令和6年度報酬改定内容及び取得加算の確認・共有を図った。

令和7年度から令和10年度までの沖縄市地域型地域包括支援センター委託業務について申請書類の提出及び審査を経て委託事業者を選定された。

2. 運営状況

特養拠点及びていんさぐぬ花拠点において稼働率への取り組み等により、介護保険事業収入は前年度比で増加となった。しかし、物価高騰や最低賃金への対応、はいびすかす拠点の大規模修繕等により人件費や事業費も増加となったことから、事業収支差額は前年度より減少となった。その為、総合福祉センター建替基本構想に基づく、施設整備積立金は目標額を下回る積立額となった。

理事会・評議員会の開催等については、集合とオンラインの同時開催により実施した。また任期中の監事退任意向の為、新監事の選任を行った。

3. 事業状況

(1) 人材確保事業

①ハローワーク求人及び求人企画

ハローワークでの求人募集による採用のほか、ハローワーク沖縄及び沖縄県福祉人材研修センターと共同で介護職説明会や介護助手求人を企画・実施し採用を図った。

②求人広告及び人材紹介サービス等

求人誌及びWEB媒体による求人広告、採用マッチングサービスを利用した求人活動を実施。また、人材紹介サービス事業者を活用し、採用を図った。

③県内外の各学校への求人票の送付

沖縄県内の各学校へ新卒者の求人票を送付し求人を図ったものの新卒者の採用はなかった。

④合同企業説明会及び就職説明会への参加

沖縄市や沖縄県社会福祉協議会、ハローワーク、ほか関係団体等が主催する合同企業

説明会に参加し求人活動を行った。

⑤リクルートページの活用

ホームページ内のリクルート専用ページにて求人を掲載し、介護職のほか各職種の採用を図った。

⑥採用活動会議

随時、採用活動会議を行い各部署の求人状況の確認や採用活動の状況等の共有を図ったほか、幹部会議・課長等会議への情報共有及び提言を図った。

⑦その他

令和6年度からの障害者法定雇用率の引き上げに伴い、障害者の雇用枠を検討するとともに、ハローワーク及び関係機関と調整を図り、障害者雇用に取り組んだ。

上記の人材確保及び採用活動等の取組により、令和6年度は72名の応募者の中から、45名の採用に繋がった。

(2) 設備整備事業

①設備整備積立金の確保

・35,000,000 円の目標積立額に対し、25,000,000 円の設備整備積立金を積み立てた。

(3) 職員研修事業

①事務局職員研修

事務局各職員が、下記の各関係機関、業界団体等が主催するセミナーや財務会計に関する研修等に参加し、専門知識の研鑽を図るとともに、関係する各行政手続き等の電子システム化に伴う勉強会への参加し、操作方法や情報の共有を図った。介護技術・機器等に関する勉強会等を予定していたが実施できなかった。

日 程	内 容	参加者
10 月 22 日	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	課長
11 月 9 日	沖縄県老人福祉施設職員研究大会	課長
12 月 6 日	社会福祉法人会計実務セミナー	事務局員
2 月 17 日	介護施設における法律実務研修	課長
2 月 26 日	障害者雇用セミナー	事務局員
3 月 18 日	介護現場における生産性向上推進フォーラム	課長
随時	介護支援ソフト操作研修	事務局員

②マネジメントと職員意識の向上に向けた研修・勉強会

・各事業の収支実績の確認、収支に対する基本理解、今後における各事業の収支上の課題等をテーマとして毎月実施した。

講 師：税理士

参加者：常務理事、事務局長、各施設長等

③研修委員会の開催

課長等会議を通じて研修委員会を実施。キャリアパスに基づく職員個別の研修計画の策定及び実施、進捗管理や、報酬改定に伴い事業所として義務化・必須となった研修、運営基準に則した研修等の実施体制を構築したほか、随時、研修内容の共有を図り、人材育成・介護サービスの向上を図った。

参加者：各事業所の課長・係長

④介護福祉士実務者研修の実施

実務者研修実施事業者と契約のうえ、スクーリング学習を法人施設内で実施。令和6年度は4名が受講し、実務者研修を修了した。

⑤本部役職員研修

	研修・セミナー内容	参加者
4月26日	人件費率70%以上の法人向け人制度改革セミナー	事務局長
5月28日	科学的介護の実践 自立支援・重度化防止の結果を出して稼働率を安定させ収益を向上させる手法	事務局長
8月29日	処遇改善加算の効果的な活用 今見直すべき人事制度とは	事務局長
9月2日	特定技能外国人 経営層向けセミナー	事務局長
9月12日	食材高騰・労働人口減少を見据えた厨房運営	事務局長
9月18日	迫る最低賃金値上げ 介護福祉事業の賃金対応手法を今考える	事務局長
9月24、25日	労務・人事講座	事務局長
10月24日	社会福祉法人向けバックオフィス構築セミナー	事務局長
12月9日	消滅する社会福祉法人 生き残る社会福祉法人	常務 事務局長
2月12、13日	監事専門講座（講師体調不良により、講座前日に中止）	監事 事務局長

（４）広報事業

①竹とんぼ発行

各施設での行事や利用者の活動の様子などの紹介のほか、法人としての公開・公表情報を掲載し、毎月（第276号から第287号まで）発行し、利用者家族や地域、関係機関へ発信した。

②ホームページによる情報の発信

法人及び各施設・事業所の紹介とともに、法令等の情報開示に基づく各種公開情報の掲載、リクルート情報の発信や、広報誌（「竹とんぼ」及び「ぬちぐすい新聞」）の掲載のほか、各種お知らせ等を発信した。

（５）地域における公益的な取組みの推進

地域における公益的な取組み

①デイサービス利用者食事無料サービス

- ・提供食数：8,157食

②包括センター主催等による地域住民の会議場所の提供

- ・提供回数：38回（内 地域サロン 33回）

③介護福祉士実務者研修講義教室の提供

実務者研修実施事業者による講義会場として、5月から10月にかけて計7回、施設内の会議室及び講義に使用する各種備品等を提供した。

（６）法人本部運営事務事業

①キャリアパス制度の構築

法人キャリアパスの目的及び内容を、年度を通して各管理者に周知し、キャリアパスに基づいた人事考課による適切な評価実施の徹底を図った。また報酬改定に伴う処遇加算の一本化に伴い、資格や経験年数等のキャリアパスに基づいた新たな処遇手当の配分ルール作成及び支給を実施した。

②法人事業財務分析及び収支マネジメント

法人における決算計算書の財務分析（経営協）を行い、収益性、資金繰り、短気安定性、長期持続性等の数値はいずれも全国指標の中央値に対し、良好な経営状況であった。各事業の収支マネジメントについては、今年度の収支到達見込みの確認を行うと共に、前3期分の収支と稼働率のデータを基に次年度に向けた報酬改定と稼働率管理を踏まえた収支目標のヒアリングを行った。

指標		全国中央値	緑樹会
収益性	サービス活動増減差額率	1.30%	5.22%
	経常増減差額率	1.69%	5.69%
資金繰り	事業活動資金収支差額率	5.8%	11.03%
短期安定性	流動比率	333.8%	391.8%
長期持続性	固定長期適合率	86.1%	84.02%

サービス活動増減差額率	法人の主とする事業での収益性を示す。値はプラスであることが必要。
経常増減差額率	サービス活動収益に対する経常利益の割合を示す。値はプラスであることが必要。

事業活動資金収支差額率	当年度の事業活動による資金収入と資金支出のバランスを示し、資金の獲得能力を表す。値はプラスであることを要する。
流動比率	短期支払い義務に対する支払能力を示す。値が高いほど、短気的な支払能力が高いことを意味し、200%以上であることが望ましい。
固定長期適合率	固定資産の整備に関わる資金調達のバランスを示す。値は 100%以下であることが判定の目安となる。

③介護機器及び介護ソフト導入サポート

生産性の向上に向け、記録業務や他介護機器との連携に特化した新しい介護ソフトの導入スケジュールを共有し、各事業においてソフト導入サポートを行った。

また各部署より介護機器 I C T 機器導入推進職員と共に、生産性向上委員会を開催し、各部署の課題の把握、解決に繋がる機器の選定、視察、デモ等を行った

	会議・デモ・視察	参加
8 月 8 日	生産性向上委員会 見守り機器デモ	本部・各部署委員
9 月 3 日	生産性向上委員会	本部・各部署委員
10 月 2 日 10 月 2 日～10 月 4 日	生産性向上委員会 国際福祉機器展視察	本部・各部署委員
12 月～2 月	生産性向上委員会 介護ソフト稼働進捗ヒアリング	本部・各施設長等及び委員

④ P D C A サイクルによる計画的な事業運営

・幹部会議において、各事業計画の P D C A を実施。達成状況を確認し、計画的な事業運営に努めた。

⑤事務局体制の機能強化

事務局内業務の整理、業務分担の見直しを行い、各々がそれぞれの業務内容をシェアし、フォローできる体制を構築した。また、行政手続きや各種取引等に係る業務について、既に電子システム化されているものや今後電子化が予定されているシステムについて操作方法や情報の共有を図った。

⑥各種委員会及び会議の運営

<第三者委員の開催>

第三者委員に係る苦情等が発生しなかった為、開催なし。

<安全衛生委員会>

職員の安全衛生管理及び災害の未然防止と、職場環境の改善、職員の健康・衛生の保持増進を推進し、円滑に職務の遂行ができるよう下記のテーマについて開催した。

開催月	テーマ	参加者
4 月	ストレスチェック実施について	8 名
5 月	ストレスチェック受検について／施設巡視	7 名
6 月	健診受診後の取り組み／熱中症対策について	7 名
7 月	治療と仕事の両立について	6 名
8 月	有休消化について	4 名
9 月	ストレスチェック集団分析結果報告／有給消化再確認	8 名
10 月	ハラスメントについて（外部講師）	9 名
11 月	集団分析結果後の各部署の課題と対策について	8 名
12 月	各部署腰痛予防対策について／施設巡視	6 名
1 月	次年度計画（案）について／施設巡視	5 名
2 月	次年度計画決定／施設巡視	8 名
3 月	労災について／次年度健康診断について	6 名

<幹部会議><感染症対策委員会>

- ・開催日：毎月（第１・３・５金曜日）及び適時
- ・開催数：23 回
- ・内 容：アクションプランの周知、各施設・事業所等の情報共有、業務の課題等の審議、具体的な方策など、事業経営全般にわたる検討、協議、事業実施の決議などの他、感染対策委員会として感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）への感染対策、発生時の対応状況等、各施設の情報共有を行った。

<施設長等会議>

今年度の収支の到達見込みの確認を踏まえた賞与率、昇給、人事の検討などの実施。幹部会議を施設長等会議に切り替えて都度開催した。

<課長等会議><研修委員会>

- ・開催日：毎月（第２・４金曜日）
- ・開催数：14 回
- ・内 容：主に法人全体の業務に係る情報共有や課題・業務改善事項等を検討し、課題解決に向けて意見交換及び幹部会議への提起のほか、各種制度に関する勉強会を行った。また、研修委員会として、研修内容の検討や体制の構築、計画の策定から実施・進捗状況の調整、共有を図った。

(7) 役員会等の開催

<法人監査>

- ・開催日時：令和6年5月15日
- ・監事：宜野座哲監事、山城真仁監事
- ・内容：令和5年度事業及び会計監査

<定時評議員会>

①第1回評議員会

- ・開催日時：令和6年6月18日
- ・議案内容：令和5年度事業報告
令和5年度計算書類及び財産目録の承認について
監事監査報告
役員（監事）の選任（案）について

<理事会>

①第1回理事会

- ・開催日時：令和6年6月4日
- ・議案内容：令和5年度事業報告及び決算の承認について
監事監査報告
令和6年度
令和6年度第一次補正予算（案）について
役員（監事）候補者の推薦（案）について
令和6年度定時評議員会の招集について

②第2回理事会

- ・開催日時：令和6年9月5日
- ・議案内容：元職員への対応について

③第3回理事会

- ・開催日時：令和6年10月29日
- ・議案内容：令和6年度第二次補正予算（案）について
評議員選任・解任委員会 補欠委員の選任（案）について
給与規定の改定（案）について

④第4回理事会

- ・開催日時：令和 7 年 3 月 11 日
- ・議案内容：令和 6 年度第三次補正予算（案）について
令和 7 年度事業計画書（案）の承認について
目的積立金の取り崩し及び目的外使用（案）について
令和 7 年度収支予算書（案）の承認について
施設長等の解任及び選任（案）について
育児・介護休業等に関する規則の改定（案）について

総合福祉センター緑樹苑

*介護老人福祉施設緑樹苑

*在宅サービスセンター

介護老人福祉施設緑樹苑 事業報告

1. 総括

令和6年度の入居者の状況は、要介護度4、5で86%、80歳以上が80%と重度化、高齢化の傾向であった。

年度の退去者は19名で、死去による退去者は15名、そのうち7名が施設での看取りを行った。入院中に死去された入所者は8名、療養型施設へ転院したのが3名、1名は介護度が2になったため、ケアハウスへ入所となった。

感染症は、7月に新型コロナウイルス感染症のクラスター（令和4年から4回目）が発生し、入所者27名（2名入院）、職員8名が感染し、発生時の対策解除までに1ヵ月を要した。その他に職員は、家庭内感染で6名が感染し、勤務体制に支障をきたした。

1月から2月にかけては、インフルエンザが発生し、入居者6名、職員4名の感染があり、対策解除までに1ヵ月を要した。

稼働率については、新規入居者調整を前もって行うことを継続したことから、空床が前年度より472日も減少したことで96%と前年度の94.7%より上昇した。

2. 運営状況

稼働率は、新規入所に至るまでの空床の減少もあり、96%と前年度より、1.3%上昇したが、入院数は前年度より126日多く、目標の97%には届かなかった。

人材確保は、年度を通して介護職員は、常勤職員10名、パート職員2名の採用を行ったが、退職者は常勤職員7名、パート職員3名と、人材確保は依然厳しい状況であった。

3. 事業状況

（1）人材育成

介護保険制度に則った必須の研修（勉強会）及び個別研修もお茶の水ケアサービス学院研修ネット配信サービスの利用で計画通り実施することができた。

県外への研修にも職員2名を派遣することができ、質の向上を図ることができた。

①施設内研修 実施

施設内研修においては、研修ごとに担当職員自身が資料作成、講師役を担った。

月	研修名	参加人数
4月	虐待防止	9名
5月	身体拘束適正化	9名
6月	感染症・食中毒予防	6名
7月	事故防止対策	8名
8月	認知症	9名
9月	看取り介護	9名

10 月	虐待防止	6 名
	業務継続計画（BCPI）自然災害・感染症	8 名
11 月	身体拘束適正化	13 名
12 月	認知症	9 名
1 月	褥瘡予防	10 名
2 月	感染症予防	14 名
	業務継続計画（BCPI）自然災害・感染症	14 名
3 月	事故防止対策	10 名
	業務継続計画（BCPI）自然災害・感染症	10 名

②施設外研修 実施

月	場 所	研修名	参加人数
4 月	緑樹苑	コミュニケーション・アプローチ研修	3 名
8 月	緑樹苑（WEB 研修）	喀痰吸引等研修	1 名
9 月	緑樹苑（WEB 研修）	喀痰吸引等研修	1 名
10 月	東京国際展示場	国際福祉機器展・フォーラム	1 名
	緑樹苑（WEB 研修）	令和 6 年度社会保障制度	1 名
	緑樹苑（WEB 研修）	喀痰吸引等研修	1 名
	緑樹苑（WEB 研修）	喀痰吸引研修（講演）	1 名
11 月	沖縄県総合福祉センター	沖縄県老人福祉施設職員研究大会	5 名
	びわ湖大津プリンスホテル	全老協 JS フェスティバル in 滋賀	1 名
	緑樹苑	喀痰吸引等実施研修	1 名
12 月	緑樹苑（WEB 研修）	リスクマネジャー養成講座 2024	1 名
	緑樹苑	喀痰吸引等実施研修	1 名
1 月	沖縄市民会館大ホール	安全運転管理者等講習	1 名
3 月	緑樹苑（WEB）	科学的介護情報システム（LIFE）説明会	1 名
	緑樹苑（WEB）	介護現場における生産性向上推進フォーラム	2 名

③個別研修計画 実施

お茶の水ケアサービス学院研修ネット配信サービスの利用で、経験年数や資格取得に応じた研修を実施。

④介護福祉士実務者研修支援 実施

職員 1 名に、実務者研修に係る費用の助成を行った。

⑤介護職員による喀痰吸引等の研修 一部実施

実地研修のみの1名は、当施設で終了することができ、資格取得ができた。講座からの研修者1名は、講座は全過程終了することができたが、退職があり当苑での実地研修はできなかった。

(2) 感染症及び災害対策の向上 実施

①感染症対策 実施

業務継続計画（BCP）を最新の動向に沿った見直しを行い、訓練（シミュレーション）も実施することができた。

②災害対策 実施

「自然災害発生時の業務継続計画」に基づき、災害発生時における職員の役割分担や基本行動等、実際に災害が発生した場合に必要な対応等研修を行い、消防訓練と連動して訓練も行うことができた。

(3) 介護現場における生産性向上等を通じた働きやすい職場環境づくり 一部実施

- ・担当者を国際福祉機器展に派遣することができた。
- ・委員会については部署内での開催を行うことができなかった。
- ・介護機器の導入に関しては継続検討中で、実際に導入はできず、業務の効率化には至らなかった

(4) 入居者処遇

①レク活動 一部実施

介護予防を支援する機能訓練等のプログラムを搭載したカラオケ機器は導入することができ、カラオケ大会は実施できた。定期的に生活リハ体操等を行ったが、目的である体力低下予防に、十分な効果をあげることはできなかった。

②高齢者虐待防止の推進 一部実施

委員会の開催、研修の実施は行ったが、虐待の芽チェックリストの定期的な実施ができなかった。

③看取り介護への対応の充実 実施

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の内容に沿った対応で7名の看取り介護を行った。

④栄養管理 実施

栄養ケア計画に従い、栄養管理ができた。また、栄養マネジメント加算の要件であるLIFEへの栄養・摂食嚥下情報の提供を継続して行った。

⑤口腔衛生の管理の 実施

月1回以上の歯科医師の訪問診療、また週4回の歯科衛生士2名による訪問で口腔ケアについて具体的な技術的助言及び指導や口腔衛生器具等のチェックも受けることが

でき、協働して口腔ケアスキルの向上が図れた。また、質の良い口腔ケアを提供することで、誤嚥性肺炎を予防することに努めた。

⑥機能訓練、口腔、栄養の一体的取組の推進 一部実施

関係職種の情報の共有のための情報入力、口腔の箇所が一部入力することができず、機能訓練、口腔、栄養の情報を一体的に共有するには至らなかった。

(5) 備品整備 実施

①居室の冷房機 3 台が老朽化により作動せず、2 台は取替工事を行い 1 台は修繕で補えた。

②車椅子の老朽化により、16 台の入れ替を行った。

4. 行事・活動等 実施

(1) 年間計画報告

月	行 事 名	参加人数
4 月	誕生会 (4/25)	26 名
5 月	入居者健康診断 (5/2)	53 名
	母の日祝い会 (5/10)	45 名
	誕生会 (5/23)	28 名
6 月	父の日祝い会 (6/14)	25 名
	誕生会 (6/20)	23 名
7 月	七夕まつり (7/5)	35 名
	誕生会 (7/18)	28 名
8 月	誕生会(中止)	0 名
9 月	敬老会 (9/16)	36 名
	誕生会 (9/26)	32 名
10 月	誕生会 (10/24)	35 名
11 月	運動会 (11/1)	23 名
	消防訓練 (11/5)	28 名
	誕生会 (11/23)	46 名
12 月	誕生会 (12/19)	23 名
	居者健康診断 (12/20)	55 名
	クリスマス忘年会 (12/25)	48 名
1 月	新年会 (1/6)	41 名
	誕生会 (1/23)	39 名
2 月	誕生会 (2/20)	42 名

3 月	消防訓練 (3/12)	28 名
	誕生会 (3/19)	45 名

(2) 実習・ボランティア受入

感染症予防対策のため、受け入れなし。

(3) クラブ活動状況

クラブ名	回数 (年度)	参加人数 (1 回当たり)
ミニシアター	62	28
音楽鑑賞	40	26
音楽体操	75	22

(4) その他

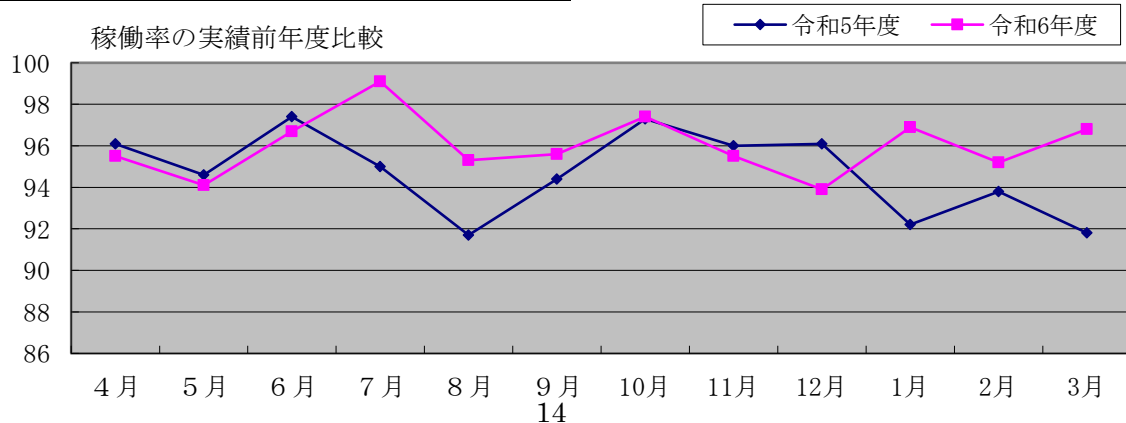
月	内 容
4 月	貯水槽清掃
5 月	法人監査
	害虫駆除 (亜土消毒)
	簡易水道検査
6 月	消防設備等機器点検
10 月	沖縄県集団指導
11 月	害虫駆除 (亜土消毒)
	高圧設備点検
12 月	消防設備等機器点検

5. 利用状況について

(1) 年度実績 (利用日数) 特養 70 名

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
特 養	2,006	2,041	2,031	2,150	2,069	2,008	2,113	2,005	2,038
稼働率	95.5	94.1	96.7	99.1	95.3	95.6	97.4	95.5	93.9

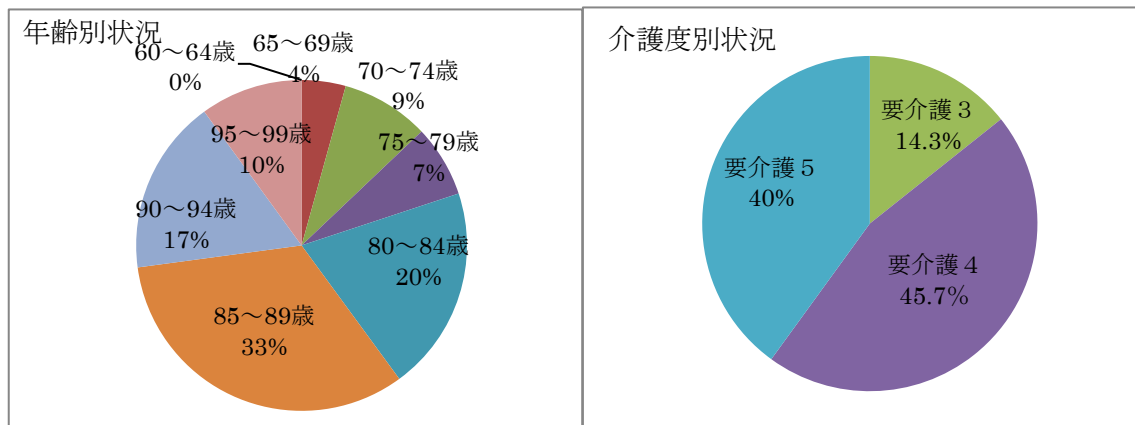
月	1 月	2 月	3 月	計
特 養	2,103	1,866	2,101	24,531
稼働率	96.9	95.2	96.8	96.0



(2) 入居者の性別、要介護度別、年齢別の状況

介護度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計	
年齢	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
60～64 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69 歳	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	2
70～74 歳	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	3	3
75～79 歳	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	2	3
80～84 歳	0	0	0	0	1	0	2	4	3	4	6	8
85～89 歳	0	0	0	0	2	1	1	15	0	4	3	20
90～94 歳	0	0	0	0	0	1	0	5	1	5	1	11
95～99 歳	0	0	0	0	0	3	1	1	2	0	3	4
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	4	6	6	26	9	19	19	51

- ・最大年齢 98 歳、最少年齢 65 歳
- ・平均年齢：男 83.29 歳、女 86.53 歳、計 85.61 歳
- ・平均介護度：男 4.3、女 4.3、計 4.3



(3) 入退所状況

令和 6 年度の入居者数は 20 人（男 5 人、女 15 人）、退去者は 19 人（男 6 人、女 13 人）で、死亡で退去の 15 人のうち、7 人は施設での看取り介護であった。

区分 月	入居			退去					
	他施設 から入居	新規 入居	計	死亡 (看取り)	医 療 機 関	療養型 医療施設	家庭	その他	計
4 月	0	1	1	0	0	0	0	0	0
5 月	1	2	3	2	1	0	0	0	3

6月	0	1	1	2	0	0	0	0	2
7月	1	1	2	1	0	0	0	1	2
8月	1	0	1	2	0	0	0	0	2
9月	1	1	2	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	1	0	0	0	1
11月	0	3	3	2	1	0	0	0	3
12月	0	1	1	1	0	1	0	0	2
1月	0	2	2	0	0	0	0	0	0
2月	0	2	2	1	0	1	0	0	2
3月	0	2	2	1	1	0	0	0	2
計	4	16	20	12	4	2	0	1	19

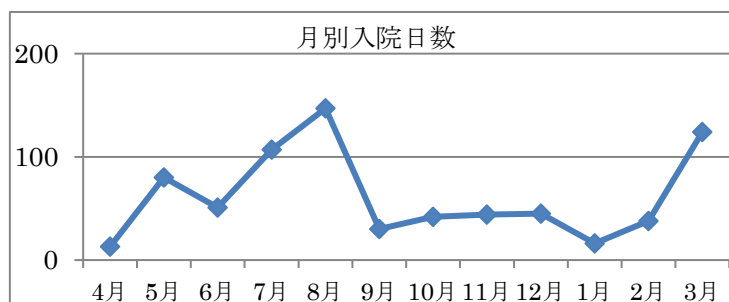
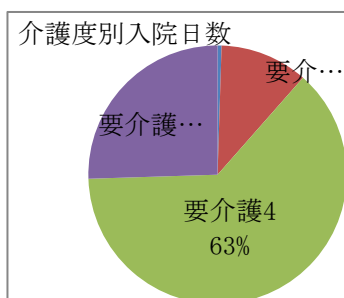
湛水流伝統保存会流御座学

(4) 入居者の入院状況

入院日数は、要介護 4、5 で **76.2%** を占め、重度化による体力低下等の傾向が表れている。月別に見ると 11 月、12 月が一番多く、原因は、大腿部骨折による長期入院が主であった。

介護度別入院日数

月 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計
4月	0	0	30	48	19	97
5月	0	0	34	17	48	99
6月	0	0	45	0	4	49
7月	0	0	3	6	1	10
8月	0	0	0	11	32	43
9月	0	0	0	41	27	68
10月	0	0	0	24	35	59
11月	0	2	0	40	61	103
12月	0	29	11	51	12	103
1月	0	0	7	43	8	58
2月	0	0	14	27	51	92
3月	0	0	25	33	2	60
計	0	31	169	341	300	841



緑樹苑短期入所生活介護事業 事業報告

1. 総括

新型コロナウイルスの影響は、令和4年度、5年度と比べ減ってきているが、令和6年度も施設内感染が発生し、7月から8月にかけて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、受け入れの中止や利用控えがあり稼働率が減少した。終息後の9月からは稼働率70%以上を維持していたが、2月にインフルエンザ罹患者や発熱者多数にて受け入れの中止や利用控えがあり稼働率が減少した。二度の感染症発生で稼働率低下はあったものの、感染症発生月以外の稼働率を70%以上で維持できていた為、令和5年度の67.7%を上回る結果となる。

令和6年度も感染予防対策を継続し、利用者本人の体調伺いや同居家族の発熱等確認の協力願いを行い、基本的な予防対策を徹底した。

職員に関しては、介護老人福祉施設と同様、感染対策マニュアルや国の感染拡大防止に関する通知等を踏まえ、感染拡大防止に努めるよう周知徹底した。

2. 運営状況

稼働率は、7月から8月のコロナウイルス、2月のインフルエンザ発生の影響で受け入れ中止等もあり、目標の75%を下回り73.1%となった。

3. 実施内容（介護老人福祉施設における事業と一体的に取り組む）

（1）人材育成 実施（介護老人福祉施設と同様に行う）

①施設内研修 実施

毎月、個別研修を実施。研修修了後は、テストやレポートの提出を行い習熟度の確認を行った。

②施設外研修

月	研修名	参加人数
4月	コミュニケーション・アプローチ研修	1名
11月	全国老人福祉施設大会・研究会議	1名

（2）感染症対策及び災害対策 実施

特別養護老人ホームの計画と連動して、感染対策を継続。

嘱託医の指導も踏まえ、感染症発生時のシミュレーションを行い、具体的な対応方法や手順の確認を実施した。

コロナ感染症及び災害対策の業務継続計画の研修・勉強会及び訓練は実施した。

(3) 利用者処遇

①安心できるサービスの提供 実施

利用者・家族が、穏やかで安心されるケアを目指し、その人らしい暮らしが実現できるよう、ケアマネジャーの計画書に添って、サービスの提供を行った。

②レク活動の充実 実施

感染予防対策のため、一部中止もあったが、レクリエーション活動や季節毎の行事を実施し、充実した生活になるよう支援を行った。

カラオケ機器を活用しレクリエーション活動の充実を図った。

③計画書に沿った機能訓練の充実 実施

サービス計画書に基づいて、心身の状態にあった機能訓練を可能な限り実施した。

残存機能や ADL 状況を把握し適切な福祉用具の選定や使用方法について家族やケアマネジャーへ助言や報告を行った。

④高齢者虐待防止の推進 実施

利用者の人権の擁護、虐待の防止等をより推進する観点から、特養の推進と連動して行った。

⑤身体的拘束等の適正化の推進 実施

利用者に対する身体的拘束等の適正化の措置を特養の指針と連動して行った。

⑥緊急利用の受け入れ 実施

緊急利用の受け入れや、虐待及びそれらに発展しかねないケースの受け入れを可能な限り実施した。

⑦ご家族及び居宅介護支援事業所との連携 実施

家族、介護者からの介護相談への対応や、介護技術のアドバイスを行い介護負担の軽減が出来るよう支援を実施。家族から特養への入所や介護負担軽減等の相談の対応も行った。

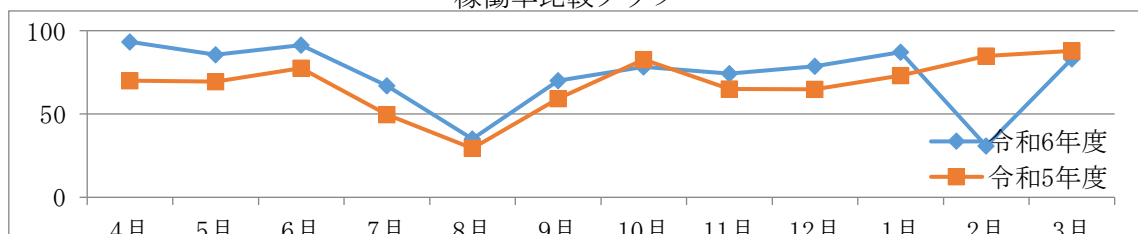
4. 利用状況について

(1) 月間利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用延人数	224	212	219	166	87	168	194	178	195
稼働率 (%)	93.3	88.5	91.3	66.9	35.1	70	78.2	74.2	78.6

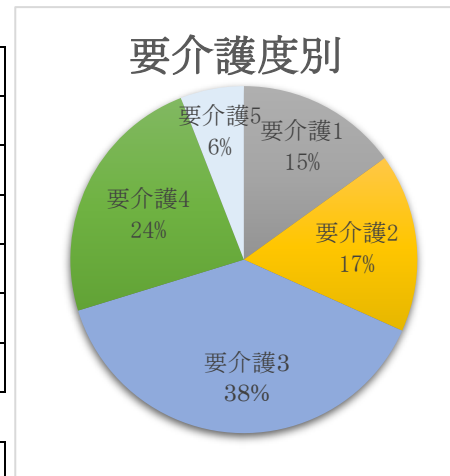
月	1月	2月	3月	計
利用延人数	216	69	206	2134
稼働率 (%)	87.1	30.8	83.1	73.1

稼働率比較グラフ



(2) 要介護度別延べ人数

	男	女	計	割合 (%)
要介護 1	61	23	84	15
要介護 2	22	71	93	17
要介護 3	52	163	215	38
要介護 4	26	107	133	24
要介護 5	2	31	33	6
計	163	397	560	100



(3) 利用者平均要介護度

男	女	計
2.3	3.1	2.9

(4) 性別平均年齢

男	女	計
80.01	89.25	86.55

(5) 提供支援事業所別定期利用者数

	事業所名	利用者数
1	緑樹苑指定居宅介護支援事業所	18
2	中部徳洲会病院居宅介護支援事業所	11
3	居宅介護支援センター沖縄市幸笑	8
4	中部サンケアネット居宅介護支援事業所	4
5	Wan Style Act	3
6	ケアプランあやかいの城	2
7	ケアプラン白浜	2
8	居宅介護支援事業所ケアプランみちしお	2
9	ケアプランセンター美らさん	2
10	中部地区医師会居宅介護支援事業所	2
11	居宅介護支援事業所愛の村	1
12	アカラ居宅介護支援事業所	1
13	指定居宅介護支援センター彩風の杜	1
14	沖縄一条園居宅介護支援事業所	1
15	居宅介護支援事業所なかがみ	1

16	ケアサービスくる	1
17	沖縄ケアサポートセンター	1
18	ケアプランいきがい	1
19	ケアプランえんまある	1
20	ケアプラン琉花	1
21	居宅介護支援事業所シオン	1
22	居宅介護支援事業所愛聖園東センター	1
23	居宅介護支援事業所おきなわ長寿苑	1
24	ケアプランセンターなないろ	1
25	ケアプランステーション晴れ空	1
26	(株)琉球メディカルズ居宅介護支援事業所	1

緑樹苑給食センター 事業報告

1. 総括

原材料の高騰もある中で、1食単価をおさえる事が出来るよう各取引業者の仕入れ価格の確認を行い、少しでも安価で納入できる業者から仕入れるよう調整し、食材仕入れの変更なども行った。また、苑内の農園で収穫した薬草や野菜を献立に反映させる事や県産野菜B級（規格外）を仕入れる事と加工料金が発生しないよう加工済みの特価食材（魚介類）を使用する事で、1食単価をおさえるように努めた。定期的に栄養士及び調理員で在庫の報告や、使用状況を連絡し合う事で、在庫を無駄なく使用する事ができた。

米の価格高騰は、年度を通して3度の値上がりがあった事で、昨年の仕入れ価格の2倍まで高騰した。値上がり前の価格で仕入れるなどの対応を行った。ご飯の提供が欠かせない給食において、お米の価格高騰は深刻な影響であった。

宅配食サービスを通して、安否確認によるコミュニケーションで、利用者との会話や表情については配達員で情報交換努めた。配達時に、不在で安否確認が取れない場合、その際には、迅速にご家族・地域包括支援センターとの連携を図り、適切な対応を行った。

2. 運営状況

沖縄市委託事業の配食サービス実績は、7,805食と前年度と比較すると年間1,348食の増となった。給食サービスは、年間食数46,200食1日平均130食以上、月間食数3,850食以上の目標に対し、年間実績51,953食、月平均4,320食、1日平均144食、前年度と比較して5,249食の増となり目標達成となった。年間を通して、ご夫婦の新規利用者が増えた事で、増加につながった。

人材確保は、調理員2名（1名職員紹介）調理補助1名、配達員の3名の採用を行ったが、年間を通して3名（調理補助）の休職や調理員1人（常勤）調理補助1人の退職、配達員は、2名の退職があった。調理員、配達員の維持することが厳しい状況であった。

職員の新型コロナウイルス感染症は、年間を通して1名陽性者と濃厚接触者6名が発生した。

3. 実施内容

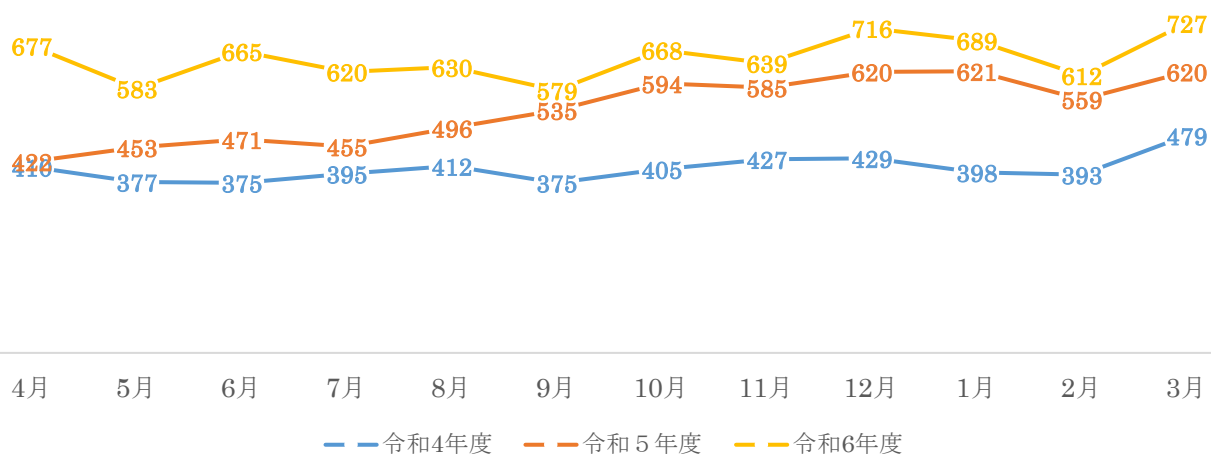
(1) 利用者サービス

①沖縄市委託事業 配食サービス・年間実績

市が認めた65歳以上の高齢者・高齢者世帯へ原則として月曜日～土曜日の昼食又は夕食上限5回まで宅配行い安否確認を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間食数
令和4年	410	377	375	395	412	375	405	427	429	398	393	479	4,875食
令和5年	422	453	471	455	496	535	594	585	620	621	559	620	6,457食
令和6年	677	583	665	620	630	579	668	639	716	689	612	727	7,805食

配食サービス前年度比較

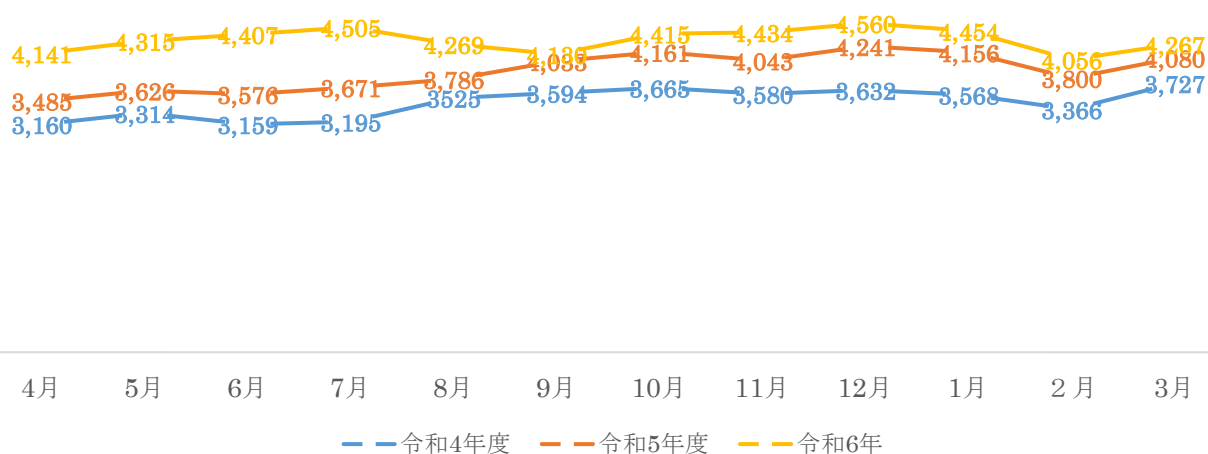


②緑樹苑独自事業 給食サービス 年間実績

食事の困難な方や高齢者・高齢者世帯へ栄養バランスの取れた食事を月曜日～日曜日の昼食及び夕食を宅配し安否確認を行った。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間食数
令和4年	3,160	3,314	3,159	3,195	3,525	3,594	3,665	3,580	3,632	3,568	3,366	3,727	41,485
令和5年	3,485	3,626	3,576	3,671	3,786	4,033	4,161	4,043	4,241	4,156	3,800	4,080	46,704
令和6年	4,141	4,315	4,407	4,505	4,269	4,130	4,415	4,434	4,560	4,454	4,056	4,267	51,953

給食サービス前年度比較



③施設食・宅配食の調理を統一し、調理員誰もが行っても同じ成果ができるよう、業務の統一で効率化を図り、生産性向上に努める。　＜未実施＞

・施設食・宅配食の献立を統一し、調理員誰もが行っても同じ成果ができるよう、施設食・宅配食調理業務に取り組んだが、大量調理により、現在の厨房機器設備での対応が厳しいことから、当初の計画的どおりにはできなかった。

④栄養面、食事制限に配慮し、毎日の食事が楽しめる見た目・味にこだわった食事提供する　＜実　施＞

・栄養管理された食事による健康維持及び喜ばれる食事の提供を意識し、調理素材は、利用者の嗜好に応じた食事形態で食事を提供した。

⑤色彩を楽しむ四季折々メニュー、季節ごとのイベント食・行事食・普段と違う楽しく食事の提供ができるように企画する。＜実　施＞

・外出等の少ない利用者にとって「食」で楽しみを持っていただけるよう、季節を感じる事ができる四季折々の行事食、栄養バランスよく色彩豊かな食事の提供を行った。毎月の誕生会や敬老の日に、重箱容器を使用した見た目も楽しめる食事の提供を行った。

⑥地元食材・旬の島野菜を使用した沖縄料理・沖縄行事食・沖縄薬草を取り入れた琉球薬膳料理、昔から伝わる食文化を大切に健康的な長寿食を提供する。

＜実　施＞

・利用者の最大の楽しみである食事は、旬の食材を使用し、季節感の食事の提供を心掛け、沖縄料理・沖縄年中行事食・沖縄薬膳料理など、健康長寿食を提供した。

⑦真空包装機を導入し、計画的な前倒し調理による真空パック保存を行い、効率的な食事の提供と備蓄食及び代替え食の対応を行う。　＜未実施＞

・前倒しによる調理行い、スチームコンベクション容器等でのチルド保存可能なことから、検討した結果、真空包装機の導入は実施しなかった。

（２）人材育成

＜内　容＞

①施設内外研修に積極的に参加し知識を深め、現場で活かせるように努める。

＜実施＞調理員としての知識、技術の向上に努め、(Web)研修にて参加した。

②管理栄養士連絡会・調理員連絡会の研修へ参加

＜実施＞沖縄県老人福祉施設職員研究大会へ管理栄養士・調理員２名を派遣。

③料理講習・ネット配信レシピ等の研修に参加

＜実施＞料理講習会、スチコンレシピ（Web）にて参加した。

④調理師資格取得試験準備講習・その他自主的な研修、取得に係る経費を助成行う。

＜未実施＞調理師資格取得試験準備講習は、受検者がいなかった為、助成は行わなかった。

⑤施設食と給食・配食弁当の効率的な調理や調理業務のフォロー体制を構築する為、業務改善及び調理員の協力体制構築を図っていく。

＜実施＞日々の業務の中で、職員一人ひとりが、お互い「信頼」と「助け合い」を持って取り組み、調理員の協力体制構築を図った。

月	場 所	研 修	参加人数
4 月	栄養士室	厨房会議	8 名
5 月	緑樹苑 (Web)	スチームコン&ブラストチラー	1 名
	栄養士室	厨房会議	7 名
6 月	緑樹苑 (Web)	再加熱調理機	1 名
	栄養士室	厨房会議	8 名
7 月	緑樹苑 (Web)	ベーカリー・厨房機器	1 名
	栄養士室	厨房会議	8 名
8 月	緑樹苑 (Web)	スチコンレシピ	1 名
	栄養士室	厨房会議	8 名
10 月	栄養士室	厨房会議	10 名
11 月	沖縄県総合福祉センター	施設職員研究大会	2 名
	栄養士室	厨房会議	10 名
12 月	栄養士室	厨房会議	9 名
		ネット配信レシピ	1 名
1 月	栄養士室	厨房会議	8 名
2 月	栄養士室	厨房会議	9 名
3 月	沖縄ロワジーヌホテル	食品食材展示会	1 名
	栄養士室	厨房会議	8 名

(3) 衛生管理 ＜実施＞

①専門業者による貯水槽の清掃（年1回）実施した。

②専門業者による害虫駆除年間6回実施した。

③衛生記録簿管理 毎日の実行内容を記録し実施した。

(4) 自然災害や感染症に備えて非常食の備蓄の管理 ＜実施＞

・非常食（飲料水・レトルト食品・弁当容器）等の食品・備品等を3日分常備した。非常食の賞味期限の確認を行い入れ替えも行った。

(5) 経費節減 ＜実施＞

・毎日の申し送りにて、食材費だけでなく節電、節水を意識し、少しでも光熱水費を減らせるよう努力するように努め、職員一人ひとりが経費節減に意識を高めていく環境作りに努めた。

(6) 新型コロナウイルス及び感染症予防対策 ＜実施＞

・新型コロナウイルス感染予防として、職員の手指消毒、マスク着用、出勤時・午後の就業時の検温・健康チェックの実施。配達員は配達ごとに手指消毒・配達車両のアルコール消毒を行い、感染予防に努めた。納品業者に対しては、検温・手指消毒・マスク着用の実施。

施設内のこまめな換気を行い感染予防に努めた。

(7) 年間行事計画

年間行事実施報告

	特養	デイ	宅配
4 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキ 手作りおやつ	日替わり健康弁当 盛り合わせ弁当
5 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ 母の日・昼食祝い膳 ケーキセット 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット ゴーヤーの日 母の日・昼食祝い膳 ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	日替わり健康弁当 母の日祝い弁当 盛り合わせ弁当 ゴーヤー弁当
6 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ 父の日・昼食祝い膳 ケーキセット 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 父の日・昼食祝い膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	日替わり健康弁当 父の日祝い弁当 盛り合せ弁当
7 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ 七夕献立	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 七夕献立 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	日替わり健康弁当 七夕弁当 盛り合せ弁当
8 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ 旧盆献立	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 旧盆献立 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	日替わり健康弁当 旧盆弁当 盛り合せ弁当
9 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 敬老の日・祝い膳 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳・ 誕生会ケーキセット 敬老の日祝い膳 カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ	日替わり健康弁当 敬老の日祝い弁当 盛り合せ弁当
10 月	誕生会・昼食祝い膳・ 誕生会ケーキセット そばの日 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット そばの日 手作りおやつ	日替わり健康弁当 盛り合せ弁当 そばの日弁当
11 月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ	誕生会・昼食祝い膳・ 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット	日替わり健康弁当 盛り合せ弁当

		手作りおやつ	
12月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット クリスマス献立 クリスマス会ケーキセット 手作りおやつ 年越しそば	誕生会・昼食祝い膳・ 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット クリスマス献立・ケーキセット 手作りおやつ 年越しそば	クリスマス弁当 日替わり健康弁当 盛り合せ弁当 年越しそば
1月	新年昼食祝い膳 誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 七草粥 手作りおやつ	新年昼食祝い膳 誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 七草粥 手作りおやつ	正月弁当 七草粥 日替わり健康弁当 盛り合せ弁当
2月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ 旧正月献立 バレンタインデー献立	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ 旧正月献立 バレンタインデー献立	盛り合わせ弁当 日替わり健康弁当 バレンタインデー献立
3月	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット 手作りおやつ ひなまつり献立	誕生会・昼食祝い膳 誕生会ケーキセット カフェタイム・ケーキセット 手作りおやつ ひなまつり献立	日替わり健康弁当 盛り合せ弁当 ひな祭り弁当

在宅サービス 緑樹苑デイサービスセンター 事業報告

1. 総括

5月に機能訓練員の退職があり個別機能訓練加算を取り下げたが、8月には訓練員を採用したことで9月より個別機能訓練加算の算定を開始。また、医療的ケアがある利用者の受け入れを積極的に行ったことで中重度者ケア体制加算の要件である要介護度3以上の割合が年間を通し40%維持することができた。

マスク着用や手指消毒など基本的な感染予防対策には徹底して継続してきたが、7月に利用者7名、職員4名のコロナ感染を確認。感染経路が違うことでこれ以上の感染拡大はなく、事業継続することができた。その中でも、利用者が楽しみにしている学童クラブとの交流や行事などは計画通り行い利用者に楽しんでもらうことができた。

2. 運営状況

1日平均29人以上、月間延利用者数720人以上の事業目標に対し、1日平均26.4名、平均月間延べ利用者679名、平均稼働率75.4%となり、前年に比べ平均人数1.2名増、延べ利用者数5.9%増、稼働率5.8%の増となった。新規獲得26件に対し、ご家族の介護負担による施設入所7件、死亡3件、利用者が自宅での転倒骨折で長期入院からの施設入所への意向で終了が7件、計17件の利用終了となり目標に対して届かない結果となった。

3. 事業状況

①1日平均29人以上、月間利用者延べ人数720人以上

- ・定期受診や利用者の体調不良といったキャンセルには振替利用等案内をする。

→受診等で休みの連絡と共に利用日変更について依頼もあり、振替利用については、利用者及びご家族にも浸透してきている。

②定員35名の取り組み

- ・各支援事業所及び地域包括支援センターを訪問し、ニーズの聞き取りを行い、体験利用につながるように取り組む。

→相談の段階で体験利用の日程等、提案し体験利用に繋げるよう取り組んでいるが、ご本人の意向（時期尚早等）で体験に繋がらないケースも3件あった。

- ・体験利用された利用者について体験利用報告書を作成し、担当介護支援専門員に当日で提出し利用につながるように取り組む。

→体験利用したその日で担当ケアマネへ体験利用報告書を提出し、利用に向け利用日など提案し新規担当者会議の日程等を提案。新規利用につなげた。

- ・利用者の状態やご家族の意向に沿って、利用日の追加等も検討し案内していく。

→利用者本人やご家族の意向で8名の利用日追加となった。

4. 実施内容

(1) サービスの質の向上

- ①認知症の周辺症状（BPSD）のある利用者の受け入れを積極的に行う。
→認知症加算算定要件の日常生活自立度Ⅲa 以上の利用者 5 名を受け入れ。現 9 名になるが、施設入所等あり算定要件である 15%以上には届かなかった。
- ②モニタリングを実施し、出来る部分は活動に反映することで利用者の満足度を高める。
→口頭にて利用者満足度チェックの聴き取りを行い、外出機会が多いことや、食事の美味しさ等で満足度は高く評価してもらえた。
- ③レク活動の充実
 - ・地域ボランティアの受け入れに取り組み、交流会を実施していく。
 - 毎月のハンドマッサージやイベント等で胡屋自治会、センター自治会民舞など、利用者的好评を得た。また、沖縄市がんじゅうポイントへの活動者受入機関に登録をしたが、今年度はマッチングしなかった。
 - ・デイサービスに畑を充実させ、季節に合わせた野菜や果物等の栽培を計画的に行い利用者がそれぞれ好きな分野に参加し楽しめるように取り組む。
 - 旬の野菜を栽培し、収穫した野菜をレクリエーション等の景品として利用者へ還元し、ご家族にも喜ばれた。
 - ・毎月のミニドライブを実施。また、初詣、遠遊会等を通して外出の機会を提供する。
 - 浜下りドライブや遠遊会など実施しているが、ミニドライブは利用者、職員のコロナ感染もあり実施できていない月（6 月・7 月・10 月・3 月）もあった。
 - ・研修やセミナー等に参加し、新しいレクリエーションを取り入れられるようにする。
 - 該当する研修がなく実施に至らなかった。
- ④個別機能訓練や苑内歩行訓練を実施。ADL、IADL の維持に努める。
→毎日、個別機能訓練や苑内散歩を実施し、利用者から好評を得ている。
- ⑤学童クラブとの世代間交流を楽しむ。
→毎月のイベントに学童交流会を実施。誕生会には利用者へプレゼント贈呈などで交流を楽しんでいた。
- ⑥食事無料化を継続する。
→食事無料をきっかけに利用された方が約 15 名。約 3 割に上り、他事業所のケアマネージャーからの相談や紹介も増えている状況。

(2) 人員の確保及び育成

- ①法人内外の研修や勉強会への参加。
 - ・各専門職（看護師・訓練員）の外部研修やセミナー等には積極的に参加する。
- 高齢者の皮膚、排泄ケアに看護師 1 名が参加
 - ・職員個別研修計画（階層別）に沿って外部研修やネット配信研修に参加する。

→個別研修は、各職員時間の合間を縫ってネット配信研修に参加している。

- ・認知症コミュニケーション・アプローチ研修に職員を派遣する。

→認知症加算の要件である認知症介護実践者研修への派遣を優先した為、実施に至らなかった。

②介護実務者研修及び認知症介護実践者研修の資格取得に係る経費の助成を行う。

- ・受講できる勤務体制作りに努め、それぞれの研修に各1名を派遣する。

→介護実務者研修に1名、認知症介護実践者研修に1名を派遣した。

- ・無資格者の新規採用には、認知症介護基礎研修を受講する。

→1名の新規採用はあったが、有資格者であり、全職員資格保有者。

③高齢者虐待防止委員会を設置する。

- ・利用者の人権の擁護、利用者に対する虐待の禁止等について職員が認識し予防及び早期発見のため、定期的に委員会を開催する。(年3回)

→高齢者虐待防止委員会を5月、10月、2月にチェックリストを用いて開催。虐待や疑いも含め該当する事案なし。

- ・権利擁護推進員養成研修や各セミナー及びフォーラム等へ積極的に職員を派遣する。

→沖縄市が主催する高齢者虐待防止講演会へ職員1名派遣。

(3) 業務改善

①腰痛予防や業務負担軽減に資する介護ロボット及びパワースーツ等、購入及びリースを検討し取り組んでいく。

→7月に沖縄福祉機器展、10月に国際福祉機器展へ職員を派遣。10月にはアシストスーツのデモとトライアル、絹泡シャワーのトライアルを実施。12月に介護ロボット及びフォーラムへ職員2名を派遣。入浴時間短縮や利用者の皮膚トラブルへの対応で絹泡シャワーを設置予定。

②新介護ソフトを活用し、記録業務での負担軽減や生産性向上に向け取り組む。

→ケアカルテの基本入力を実施。

③加算取得に取り組む。

- ・中重度ケア体制加算、認知症加算の取得を目指していく。

→中重度者ケア体制加算の算定要件は満たすことができたが、認知症加算の算定要件が満たすことができなかった。

(4) リスクマネジメント

①防災マニュアルに沿って法人内の防災訓練に参加する。

- ・月1回以上のデイサービス内の防災訓練を実施する。

→毎月、防災クイズ(地震、台風、津波等)や動画視聴を行い防災について意識付けをおこなっている。

- ・年2回以上のデイサービス避難誘導訓練を実施する。

→7月と11月に避難誘導訓練を実施。3月には法人の防災訓練に参加した。

②利用者送迎時における交通法規の遵守

- ・出勤時、退勤時には、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行う。

→全職員、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行い、記録した。

- ・安全運転についての講習会を年1回、外部講師を招き開催する。

→8月に西日本自動車共済組合から講師を招き講習会を実施。

③送迎車の日々の車両チェック及び老朽化への取り組み

- ・車両は法定点検及び毎日の車両チェックを行い、不備等あれば早急に対応する。

→毎朝の車両チェックを実施。大きな故障などはなかった。

- ・送迎車両の経年劣化した車両（17年使用）もあり購入及びリースを検討していく。

→希望している車両の生産が間に合わない等の遅れが生じ代替車両も同事由で購入及びリースに繋がらなかった、次年度には購入及びリースを検討する。

④緊急時対応

- ・AED取り扱い勉強を専門業者へ依頼し年1回講習会を実施する。

→6月に日本光電から講師を招き講習会を実施。

⑤業務継続計画への取り組み

- ・感染症や災害等が発生した場合であっても業務継続が出来るように、災害（風水害、地震、感染症）に合わせた訓練（シミュレーション）を定期的に行う。

→6月、12月、3月に机上訓練を実施しデイサービスや学童クラブといった利用者、児童が利用している中での地震を想定した机上訓練。ヘルパーや居宅支援事業所など移動中や訪問中での地震を想定した机上訓練を行った。

（5）感染症対策

①職員は自己・利用者の体調管理に努めるとともに感染しない・させない取り組みを行う。

→ホール内の常時換気や食事前後、おやつ前後のテーブルの消毒。送迎前の車両の消毒を毎日実施した。

②職員は出勤前の体温測定、休憩後の体温測定を行い、体温記録簿に表記する。

→実施し記録した。

③マスク、手洗い、手指消毒の徹底。

→実施。

④デイサービスでは常時換気を行うと共に、送迎車の換気と使用前消毒を行う。

→実施。

⑤利用者においては、常時マスクの着用や手洗い、手指消毒を促す。

→実施し、声掛けにてマスク着用の促しを行った。

⑥感染症対策委員会を年3回開催しその都度変化する感染症対策や予防に努める。

→感染症委員会を4月、9月、1月に実施し、職員へ周知を図った。

5. 行事・活動等

(行事・イベント)

4月	浜下りドライブ (10日・16日)	45名
	学童交流会「新一年生お披露目会」 (17日)	23名
	カフェタイム (18日)	23名
	三線クラブ (19日)	4名
	誕生会 (22日)	29名
	手作りおやつ (24日)	25名
5月	母の日会 (10日)	28名
	ミニドライブ (13日)	5名
	職員による三線ショー (15日)	25名
	カフェタイム (18日)	28名
	手作りおやつ (21日)	25名
	三線クラブ (23日)	3名
	誕生会 (24日)	28名
	学童交流会「学童エイサー」 (27日)	26名
6月	遠遊会 (5日)	22名
	誕生会 (7日)	27名
	職員による三線ショー (11日)	25名
	父の日会 (14日)	25名
	手作りおやつ (19日)	25名
	三線クラブ (21日)	3名
	カフェタイム (24日)	25名
	職員による三線ショー (25日)	26名
	ハンドマッサージ (26日)	22名
7月	学童交流会「七夕会」 (6日)	25名
	カフェタイム (9日)	28名
	手作りおやつ (19日)	22名
	誕生会 (25日)	27名
	避難誘導訓練 (30日)	29名
8月	誕生会 (7日)	22名
	ミニドライブ (13日)	6名
	手作りおやつ (14日)	20名
	学童交流会「ウンケーエイサー」 (16日)	21名
	ハンドマッサージ (21日)	19名
	カフェタイム (22日)	26名
	三線クラブ (23日)	4名
	学童交流会「夏まつりエイサー」 (27日)	26名
9月	カフェタイム (3日)	26名
	学童交流会「敬老会」 自治会ボランティア「胡屋・センター」 (13日)	28名
	職員による三線ショー (17日)	27名
	ハンドマッサージ (18日)	21名

	誕生会 (19 日)	25 名
	ミニドライブ (21 日)	3 名
	手作りおやつ (26 日)	27 名
	三線クラブ (27 日)	3 名
10 月	手作りおやつ (7 日)	29 名
	ハンドマッサージ (9 日)	25 名
	カフェタイム (12 日)	26 名
	三線クラブ (14 日)	3 名
	誕生会 (16 日)	28 名
	学童交流会「運動会」 (21 日)	30 名
	学童交流会「ハロウィーン」 (26 日)	28 名
11 月	避難誘導訓練 (5 日)	27 名
	wink 鈴木早智子×中田亮 SP オンラインライブ (8 日)	28 名
	遠遊会 (12 日・13 日)	58 名
	三線クラブ (14 日)	3 名
	カフェタイム (15 日)	27 名
	手作りおやつ (19 日)	27 名
	ハンドマッサージ (20 日)	30 名
	職員による三線ショー (20 日)	30 名
	学童交流「誕生会」 (27 日)	29 名
12 月	ハンドマッサージ (4 日)	30 名
	手作りおやつ (10 日)	28 名
	カフェタイム (12 日)	26 名
	誕生会 (17 日)	28 名
	職員による三線ショー (18 日)	26 名
	ミニドライブ (20 日)	5 名
	学童交流会「クリスマス忘年会」 (25 日)	26 名
1 月	学童交流会「新年会」 (4 日)	26 名
	手作りおやつ (7 日)	29 名
	ハンドマッサージ (8 日)	28 名
	カフェタイム (13 日)	30 名
	初詣ドライブ (22 日)	24 名
	誕生会 (23 日)	27 名
2 月	節分豆まき (3 日)	25 名
	花見ドライブ (11 日・17 日)	30 名
	カフェタイム (14 日)	25 名
	学童交流会「誕生会」 (18 日)	24 名
	手作りおやつ (24 日)	27 名
3 月	三線の日、三線ショー	25 名
	カフェタイム (11 日)	25 名
	法人防災訓練 (12 日)	27 名
	ハンドマッサージ (19 日)	24 名
	手作りおやつ (21 日)	25 名
	学童交流会「誕生会」 (25 日)	21 名
	防災訓練 (27 日)	28 名

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「入浴介助について」(29 日)	7 名
5 月	緑樹苑デイサービス	個別研修(8 日・17 日・21 日)	3 名
	沖縄市社協	リフト付き車両安全運転講習会(22 日)	2 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「ハラスメントについて」	9 名
6 月	緑樹苑デイサービス	個別研修(6 日・17 日・18 日・24 日)	4 名
	緑樹苑デイサービス	AED 取り扱い勉強会(14 日・21 日)	10 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「接遇について」(25 日)	8 名
7 月	緑樹苑会議室	実務者研修(16 日)	1 名
	県総合福祉センター	沖縄福祉機器展(12 日・13 日)	3 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「非常災害時の対応について」(25 日)	8 名
8 月	緑樹苑デイサービス	安全運転講習会(2 日・9 日)	12 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「介護予防、進行予防について」(26 日)	10 名
9 月	緑樹苑デイサービス	個別研修(16 日・20 日)	1 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「緊急時の対応について」(20 日)	9 名
10 月	東京ビッグサイト	国際福祉機器展(2 日・3 日・4 日)	1 名
	緑樹苑会議室	実務者研修(8 日)	1 名
	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「プライバシーの保護について」	9 名
	全社協 灘尾ホール	社会福祉法人経営塾(28 日・29 日)	1 名
11 月	沖縄市産業交流センター	沖縄市高齢者虐待防止講演会	1 名
12 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「事故の発生、予防、再発防止について」(24 日)	9 名
	沖縄産業支援センター	介護ロボットフォーラム(19 日)	2 名
1 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「事故発生・再発防止について」	10 名
2 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「認知症及び認知症ケアについて」	10 名
3 月	緑樹苑デイサービス	部内会議、勉強会「倫理、法令遵守について」	10 名

(その他)

	その他
4 月	訓示・辞令交付式(4 日) 稼働率会議(4 日・10 日・18 日) 課長会議(12 日・26 日) 安全衛生委員会(18 日) ケアカルテ導入打合せ(24 日) アシストスーツ体験会(25 日) 在宅感染症対策委員会(15 日)
5 月	在宅会議(7 日) 稼働率会議(8 日) 課長会議(10 日) 在宅虐待防止委員会(15 日) 安全衛生委員会(16 日) 互助会会議(20 日)
6 月	互助会会議(11 日) 安全衛生委員会(20 日) 集団指導(26 日)
7 月	安全衛生委員会(18 日)
8 月	課長会議(9 日・23 日) 安全衛生委員会(15 日)
9 月	生産性向上委員会(3 日) 在宅会議(11 日) 安全衛生委員会(19 日) 在宅感染症対策委員会(23 日) 課長会議(27 日)
10 月	課長会議(11 日・25 日) 介護保険集団指導(17 日) 安全衛生委員会(17 日)
11 月	在宅会議(7 日) 幹部会議「個別研修進捗報告」(29 日)
12 月	在宅 BCP 訓練シミュレーション(3 日)
1 月	在宅会議(9 日) 課長会議(10 日・24 日) 互助会会議(14 日)

	安全衛生委員会（16 日） 在宅感染症対策委員会（17 日） 経営熟（27 日・28 日）
2 月	互助会会議（13 日） 課長会議（14 日） 在宅高齢者虐待防止委員会（21 日） 月次報告会（26 日）
3 月	在宅会議（5 日） 在宅 BCP 訓練シミュレーション（12 日） 安全衛生委員会（18 日） 月次報告会（26 日）

6. 利用状況について

（1）年間実績（利用日数）

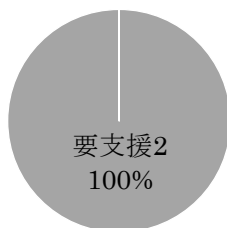
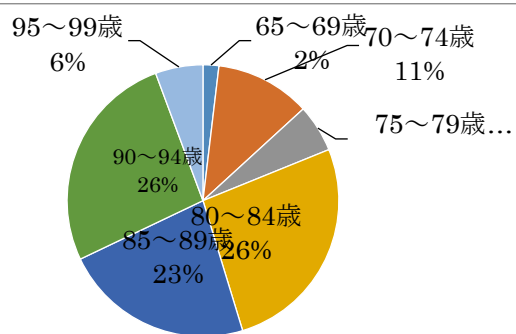
月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
日数	26	27	25	27	27	25	27
総合事業	59	64	57	67	73	76	80
要介護	593	628	606	574	618	572	653
延べ人数	652	692	663	641	691	648	733
稼働率	71.6	73.2	69.3	67.8	73.1	74.1	77.6
日平均	25.1	25.6	26.5	23.7	25.6	25.9	27.1
月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計/平均	
日数	26	25	24	24	26	309	
総合事業	71	50	42	39	42	720/60	
要介護	680	663	607	586	657	7437/619.7	
延べ人数	751	713	649	625	699	8157/679.8	
稼働率	82.5	81.5	77.3	74.4	74.8	75.4	
日平均	28.8	28.5	27.0	26.0	26.8	26.4	

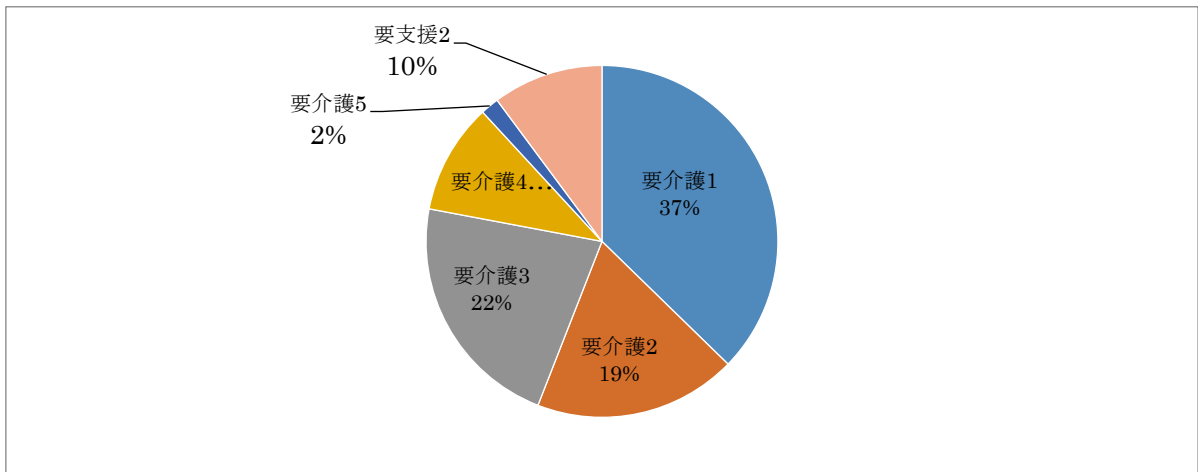
※稼働率は定員 35 名で算出

（2）利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

	事業対象者		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～84 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85～89 歳	0	0	0	0	0	5	0	0	5
90～94 歳	0	0	0	0	0	1	0	0	1
95～99 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	6	0	0	6
平均年齢	0	0	0	0	0	88.3	0	0	88.3

	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
70～74 歳	1	3	0	1	0	0	0	1	0	0	1	5	6
75～79 歳	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	3
80～84 歳	2	4	3	1	2	0	0	2	0	0	7	7	14
85～89 歳	3	3	0	2	2	1	0	1	0	0	5	7	12
90～94 歳	1	3	1	2	1	4	0	2	0	0	3	11	14
95～99 歳	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	2	3
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	8	14	4	7	6	7	0	6	0	1	18	35	53
平均年齢	83.3	82.7	84	84.6	103.6	92.3	0	84.7	0	65	90.3	81.9	85.0





年齢別状況

介護度別状況

(3) 新規・終了状況

	新規			終了				
	要支援	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	0	4	4	0	0	2	0	2
5月	0	2	2	1	0	0	0	1
6月	0	1	1	0	1	1	0	2
7月	0	2	2	0	0	1	0	1
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	2	2	1	0	0	0	1
10月	0	4	4	0	1	0	0	1
11月	0	2	2	0	1	1	0	2
12月	0	3	3	0	0	1	0	1
1月	0	1	1	1	2	3	0	6
2月	0	2	2	0	1	1	1	3
3月	0	3	3	0	1	1	0	2
合計	0	25	26	3	7	11	1	22

緑樹苑居宅サービス事業所（訪問介護・障害福祉）事業報告

1. 総括

利用者の状態や状況等をケアマネや支援員に報告し必要あれば訪問回数の増加や提供時間の拡充に務め利用増に繋がったケースもあったが、自宅での転倒で骨折入院し利用終了も13件あった。また、訪問介護員1名の退職があったが、代行等で対応し計画通り支援することができた。

2. 運営状況

訪問延べ回数目標 5800 回に対し 3916 回の実績。月間 157 回減。総合事業目標 1800 回に対し 1221 回の実績。月間 101 回減となり、事業収益も 5.3%減。新規獲得 12 件に対し、自宅での転倒で骨折入院から施設入所、死亡などで終了したケース 22 件となり、新規獲得が追いついていない状況となった。障害福祉サービス利用者の目標 15 件に対し 9 件。6 件の減となったが、訪問回数や訪問時間の拡充等で前年比 6.5%増の収益となった。

3. 事業状況

（1）サービスの質の向上

- ①居宅介護支援事業所や支援員の事業所を訪問しケアマネージャーや支援員からニーズを聴き取り、支援の提案等行っていく。
→実績を届ける際に、空き状況等を案内した。
- ②利用者の状態や状況等を確認し、必要に応じてサービス提供時間の拡充。多様なニーズにも柔軟に対応出来るようケアマネージャーや支援員と連携を図る。
→看取り利用者の受け入れ等を行いケアマネや支援員と連携を図りながら対応した。
- ③利用者が気持ち良くサービスを利用するために、接遇に対する研修への参加や自己評価を行い、接遇に対し意識の高いサービスを提供する。
→12月に接遇のネット配信研修に参加。3月に自己評価を実施した。

（2）人材の確保・育成

- ①訪問介護員個別の研修計画を策定し計画に沿った研修に派遣をすることで、一人ひとりのスキルアップを図る。
→各職員時間の合間を縫って個別研修を行った。
- ②個別職員研修計画（階層別）に沿って外部研修や、ネット配信研修に参加をする。
→7月に福祉機器セミナーへ参加。沖縄市主催の高齢者・障がい者虐待防止研修に職員を各1名派遣した。
- ③認知症コミュニケーション・アプローチ研修に参加する。
→認知症介護実践者研修への派遣を優先した為、実施に至らなかった。

④サービス提供責任者は登録ヘルパーと定期的に面談を行い、相談がしやすい環境作りに努める。

→サービス提供責任者が登録ヘルパーと面談を行い、利用者の対応等についての確認を行った。

⑤認知症介護実践者研修及び認知症介護リーダー研修に係る経費の助成を行う。

参加できる勤務体制作りに努め、それぞれの研修に介護職員1名を派遣する。

→認知症介護実践者研修へ申込をしているが、申し込み多数で定員に入ることができず実施できなかった。

⑥ヘルパー定例会を月1回開催、情報の共有や勉強会、実技等を学ぶことで訪問介護員としての研鑽を積む（腰痛予防については機能訓練員へ講師依頼）。

→定例会を毎月開催し、11月には、腰痛予防についてストレッチを実施。

⑦ヘルパー部内会議を月1回開催、活動予定やサービス提供時間の拡充に対しての共有を図る。

→毎日、メール等でサービス提供責任者が指示伝達し、各職員が報告を行った。

⑧高齢者・障がい者虐待防止委員会の設置

・利用者の人権の擁護、利用者に対する虐待の禁止等について職員が認識し予防及び早期発見のため、定期的に委員会を開催する。（年3回）

→虐待防止委員会を5月、10月、2月にチェックリストを用いて開催。虐待や疑いも含め該当する事案なし。

・権利擁護推進員養成研修や各セミナー及びフォーラム等へ積極的に職員を派遣する。

→10月に沖縄市が主催する障がい者虐待防止研修へ職員1名を派遣。

（３）業務改善

①腰痛予防や業務負担軽減に資する介護ロボット及びパワースーツ等、購入及びリースを検討していく。

→10月にアシストスーツのデモを開催。10月に腰痛予防についてストレッチ体操を定例会にて実施。

②新介護ソフトを活用し。記録業務での負担軽減や生産性向上に向け取り組む。

→ケアカルテの基本入力を実施。

③訪問支援における職員間で統一したケアができるように取り組む。

→利用者の意向等で訪問できていない利用者宅もある為、統一したケアまでには至らなかった。

（４）リスクマネジメント

①利用者個々に想定される事故や症状の急変時に訪問介護員が適切な対応が取れるように部内会議や定例会で対応の確認や変更等あれば対応方法を再検討していく。

→6月にAED取り扱い勉強会を開催。

②交通法規の遵守

- ・出勤時、退勤時にアルコールチェック及び免許証携帯の確認を行う。

→全職員、アルコールチェック及び免許証携帯の確認を行い、記録した。

- ・安全運転講習会に年1回参加し安全運転への意識を高める。

→8月に西日本自動車共済組合から講師を招き講習会を実施。

③事故やヒヤリハットが出た時は事業所全体で情報を共有し再発防止に努める。

→事故やヒヤリハットの事例を基に勉強会を開催した。

④事業継続への取り組み

- ・感染症や災害等が発生した場合であっても業務継続ができるよう、災害（風水害、地震、感染症）に合わせた訓練を定期的に行う。

→6月、12月、3月に机上訓練を実施。利用者宅へ移動中や訪問中での地震を想定した机上訓練を行った。

（５）感染症対策

①職員は自己・利用者の体調管理に努め、感染しない・させない取り組みを行う。

→出勤前の体温測定、休憩後の体温測定を行い、記録を行った。

②職員は出勤時及び利用者宅訪問前に体温を測定し、記録をする。

→出勤時及び訪問前の体温を測定し記録した。

③マスクは常時着用、フェイスシールド、ガウン及びアルコール消毒液の携帯。

→マスクは常時着用し、フェイスシールド、ガウン、アルコール消毒液の携帯し訪問した。

④ケアに入る前には利用者の体温測定、室内換気、マスク着用を促す。

→利用者へ了解を得て、室内の換気やマスク着用の促しをした。

⑤マニュアルに沿って関係機関と連携を取り感染拡大防止に務める、

→コロナ感染等、関係機関と連携を取りながら、感染予防に留意しケアを持続できるよう務めた。

⑥感染症対策委員会を年3回開催。都度変化する感染対策や予防に努める。

→委員会を4月、9月、1月に感染症対策委員会を開催し職員へ周知を図った。

5. 行事・活動等

(職員研修、勉強会等)

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4 月	デイサービス	課内勉強会 「令和 6 年度事業所計画」 実技指導 「パワースーツ使用法」	16 名
5 月	デイサービス	課内勉強会 「非常災害時の対応」	16 名
6 月	デイサービス	課内勉強会 「AED 取り扱い勉強会」 実技指導 「AED 使用方法」	16 名
7 月	デイサービス	課内勉強会 「食中毒予防について」 実技指導 「足浴」	16 名
8 月	デイサービス	課内勉強会 「安全運転のポイントと重大事故に 繋がる交通違反」	16 名
9 月	デイサービス	課内勉強会 「高齢者虐待防止について」	16 名
10 月	デイサービス	課内勉強会 「在宅生活を続ける為の、認知症ケア」 実技指導 「パワースーツ使用法」	16 名
11 月	デイサービス	課内勉強会 「ヒヤリハットについて」 実技指導 「腰痛予防体操」	16 名
12 月	デイサービス	課内勉強会 「介護従事者の接遇について」 実技指導 「栄養補助食品の試飲」	16 名
1 月	デイサービス	課内勉強会 「倫理、法令遵守について」 実技指導 「口腔ケア」	16 名
2 月	デイサービス	課内勉強会 「BCP について」 実技指導 「福祉車両リフト使用法」	16 名
3 月	デイサービス	課内勉強会 「障害者虐待防止と権利擁護」 実技指導 「業務に関するチェックリスト」	16 名

6. 利用状況について

(1) 年間実績 (利用回数)

	介護保険				障害福祉サービス			
	訪問介護		総合事業サービス		居宅サービス		移動支援	
	利用 者数	提供 回数	利用 者数	提供 回数	利用 者数	提供 時間	利用 者数	提供 回数
4 月	26	324	26	132	11	438	2	5
5 月	25	317	23	127	11	409	2	6
6 月	26	300	25	122	11	365	2	5
7 月	26	311	24	133	9	319	2	6
8 月	28	326	21	115	8	318	2	5
9 月	29	366	20	95	9	318	2	5
10 月	28	344	20	103	9	344	2	5
11 月	25	310	20	102	9	327	2	5

12 月	29	322	18	93	9	319	2	5
1 月	29	326	17	69	8	316	2	4
2 月	28	328	15	64	9	319	2	5
3 月	26	342	14	66	9	332	2	5
合計	325	3916	243	1221	112	4124	24	61
平均	27	326	20	101	9	343	2	5

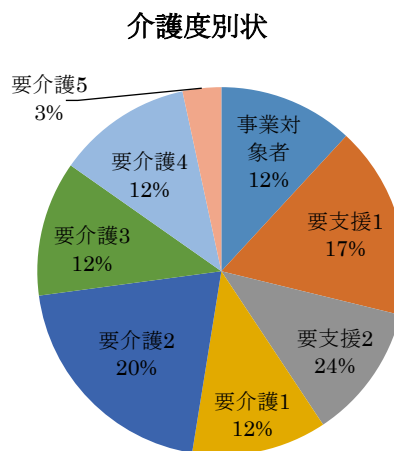
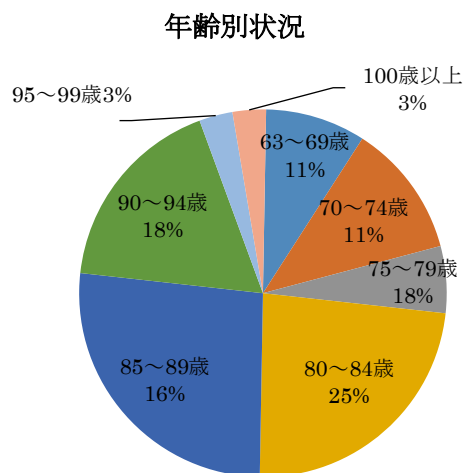
(2) 利用者の性別、要介護度別、年齢別の状況

総合事業

	事業対象者		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
63～69 歳	1	0	1	0	0	0	2	0	2
70～74 歳	0	1	2	0	0	0	2	1	3
75～79 歳	0	1	0	1	0	3	0	3	3
80～84 歳	1	1	0	3	0	1	1	5	6
85～89 歳	1	0	2	1	0	2	3	2	6
90～94 歳	0	1	0	0	1	2	1	3	4
95～99 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3	4	5	5	1	6	9	15	24
平均年齢	78	81	77	83	93	86	79	83	82

要介護者

	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～64 歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
65～69 歳	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	3
70～74 歳	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2	4
75～79 歳	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2
80～84 歳	2	1	0	1	2	1	0	1	0	0	4	4	8
85～89 歳	0	1	0	4	0	3	0	1	0	0	0	9	9
90～94 歳	0	1	0	1	0	1	0	3	0	0	0	6	6
95～99 歳	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
100 歳以上	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	4	3	1	11	2	5	0	7	1	1	8	27	35
平均年齢	74	87	72	82	81	86	0	87	74	70	75	81	79



(3) 新規・終了状況

介護保険

	新規			終了				
	総合事業	要介護	計	死亡	医療機関	施設入所	その他	計
4月	0	1	1	0	1	0	0	1
5月	0	1	1	0	2	1	0	3
6月	1	0	1	1	1	0	0	2
7月	0	1	1	0	1	0	0	1
8月	0	1	1	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	2	0	2
10月	1	1	2	0	3	0	1	4
11月	0	0	0	0	0	0	1	1
12月	0	3	3	1	1	0	0	2
1月	0	0	0	1	1	0	0	2
2月	0	2	2	1	0	0	2	3
3月	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	2	10	12	5	10	3	4	22

障害福祉サービス

	新規		終了				
	支援費	計	死亡	医療機 関	施設入 所	その他	計
4 月	0	0	0	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0	0	0	0
6 月	0	0	0	2	0	0	2
7 月	1	1	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0
10 月	0	0	0	0	0	0	0
11 月	0	0	0	0	0	0	0
12 月	0	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0	0	0	0
2 月	0	0	0	0	0	0	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	0	2	0	0	2

緑樹苑指定居宅介護支援事業所 事業報告

1. 総括

令和6年度は新型コロナウイルスの感染（施設内）はあったが感染拡大はなく、介護サービスの提供に大きな影響はなかった。また、新型コロナウイルスの影響により、昨年まで介護支援専門員実務研修の受け入れはできなかったが、令和6年度は1月に実務者実習生の3名を受け入れたことや、具志川看護学校から初めて実習生の受け入れ依頼があり看護学生2名を受け入れ利用者宅へ同行訪問を行った。今年度は「主任介護支援専門員」研修に介護支援専門員1名を派遣し主任介護支援専門員の資格取得をした。

2. 運営状況

令和6年度は月平均プラン件数122件（介護106件、予防・総合16件）目標を立て4月に4名の介護支援専門でスタートをしたが、5月に介護支援専門1名が施設に異動になったことで特定事業所加算ⅡからⅢに変更申請をした。5月に1名（パート）、6月に1名の採用ができたことから特定事業所加算Ⅱの再取得をすることができた。月平均目標に対し、実績126件（介護111件、予防・総合15件）と目標を達成することができた。予防プランより要介護プラン件数が増になったことから収入も増となった。

3. 事業状況

（1）サービスの質の向上

①利用者の「自立とQOLの向上」ができる計画の作成に努める。

→介護保険サービス以外の障害サービス・在宅福祉サービス・高齢者地域支援事業等を導入し利用者が自立した生活を送れるように居宅サービス計画の作成に努めた。

②中重度要介護者となっても、地域資源を活用し自立した生活ができるように努める。

→地域資源（市の配食サービスや市の介護タクシー）等を活用しサービスを利用することで住み慣れた地域で過ごすことができるように努めた。

③ニーズに応じ各関係機関等の多職種連携を密に行いサービスを提供できるようにする。

→徘徊症状がある利用者を地域包括支援センターや各関連機関との連携を密に行い住み慣れた地域で過ごすことができるように努めた。

④計画的に法人内外の研修に参加し知識、技術を習得しケアマネジメントの質の向上に努める。

→各職員の経験年数等に応じて法人内外の研修に参加した。

（職員研修）

月	場 所・日	研 修 名	参加人数
4 月	緑樹苑居宅介護支援事業所	高齢者虐待防止研修	4 人
5 月	沖縄市産業交流センター (16 日)	令和 6 年度 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部研修会【インフォーマルサービ	1 人

		スについて】	
6 月	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（14 日）	令和 6 年度 沖縄県介護支援専門員 沖 縄市支部総会	3 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（26 日）	お茶の水ケアサービス学院 感染症 BCP 対策	1 人
7 月			0 人
8 月	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（8 日）	令和 6 年度 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部 代表委員会【法改正】	1 人
9 月	緑樹苑居宅介護支援事業所オ ンライン（2 日）	お茶の水ケアサービス学院 【認知症の治療やケア】	5 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（17 日）	医療法人社団星の主催 在宅医療セミナー	1 人
	沖縄県総合運動公園 会議室（19 日）	令和 6 年度 沖縄市社会福祉協議会 【福 祉事業所にとっての BCP】	2 人
	東部クリニック（26 日）	沖縄市健康福祉部 ちゅいしいじい課 【層的支援体制整備事業とは】	2 人
10 月	沖縄市役所（3 日）	令和 6 年度 防災について【災害を自分事 として考える】	3 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（4 日）	令和 6 年度 沖縄県介護支援専門員研修 援助職の為のハラスメント対策	1 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（10 日）	令和 6 年度 沖縄県他職種連携ケアマネ ジメント研修	1 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（28 日・29 日）	令和 6 年度 沖縄県主任支援専門員研修	1 人
11 月	緑樹苑居宅介護支援事業所オ ンライン（6 日～7 日・20 日～ 22 日）	令和 6 年度 沖縄県主任支援専門員研修	1 人
	沖縄県中部保健所（15 日）	令和 6 年度 在宅難病患者支援者研修	1 人
	沖縄市産業交流センター （20 日）	令和 6 年度 沖縄市高齢者虐待防止講演 会【高齢者虐待を考える】	1 人
	沖縄市産業交流センター （21 日）	令和 6 年度 沖縄県介護支援専門員協会 沖縄市支部研修会【重層的支援体制整備事 業について】	1 人
12 月	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（3 日）	倫理及び法令遵守に関する研修 【プライバシー保護の取り組み】	1 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（3 日）	お茶の水ケアサービス学院 【感染症に係る業務継続計画】	1 人
	緑樹苑居宅介護支援事業所 オンライン（10～13 日）	令和 6 年度 沖縄県主任支援専門員研修	1 人
1 月			
2 月	沖縄市産業交流センター （13 日）	沖縄市介護予防ケアマネジメント研修 【要支援者を自立させるための方法】	2 人
	居宅介護支援事業所 オンライン（14 日）	介護支援専門員スキルアップ研修 【適切なケアマネジメント手法を理解し 使いこなそう】	1 人

	緑樹苑デイサービスセンター (27 日)	【介護サービス事業所の防犯対策と BCP】	4 人
3 月	居宅介護支援事業所 オンライン (10 日)	お茶の水ケアサービス学院 【ハラスメント研修】	5 人

(2) 人材の確保及び育成

- ①各介護支援専門員各々の目標を策定し、個々の目標に応じた研修計画を作成、実施する。
→介護支援専門員個々の研修計画を策定し計画に沿って実施した、1 名を主任介護支援専門員研修に派遣し主任介護支援専門員の資格を取得した。
- ②週 1 回以上、事業所内で利用者情報やケース内容の把握を行い、適切なケアマネジメントに努める。
→週 1 回、利用者に関する情報共有・問題解決策・サービス提供等の意見交換や情報交換を行い適切なケアマネジメントに努めた。
- ③他の居宅介護支援事業所との合同勉強会に参加し情報交換や多角的な支援方法のきづき等、専門職としての知識の習得に努める。
→6 月に他法人居宅介護支援事業所との事例検討会を開催し、多様な視点・取り組み・気づきが得られ問題解決策を学ぶことができた。
- ④定期的に職員相互でプランチェックを行い、プランニングの質の向上に努める。
→月 1 回、各書類を点検し、運営基準遵守・プランニングの質の向上に努めた。
- ⑤困難事例に関しては、「個別地域ケア会議」「自立支援地域ケア会議」に事例提供し専門職の助言を得てその解決に努める。
→11 月に地域包括西部北開催の自立支援地域ケア会議に参加し介護予防を重視した自立支援に資するケアマネジメントの習得に努めた。また、地域包括西部南とは利用者の状況に応じて個別ケア会議を開催し問題解決に努めた。
- ⑥介護支援専門員実務者研修を受け入れ、研修後は人材獲得に繋げる。
→1 月～2 月に 3 名を受け入れた（地域包括西部北 1 名と他法人 2 名）が 3 名とも専門職として就労していることから人材獲得には繋がらなかった。

(3) 業務改善

- ①タブレット端末やノート型パソコン等を活用し資料・写真・動画等を説明し利用者・家族、各種関係機関・事業所内での情報共有に努める。
→タブレット端末の写真を活用することで利用者や家族に分かりやすく説明ができた。研修資料等はタブレット端末に保存し事業所内での情報共有やペーパーレス化する事でコスト削減や業務の効率化に繋げることができた。
- ②利用者や家族等の相談に対し柔軟な勤務調整を行い対応する。
→柔軟に勤務調整をすることで月次訪問・担当者会議等利用者や家族が希望する日にスムーズに行えた。

(4) リスクマネジメント

- ①介護保険制度や他サービス利用料金など丁寧に利用者、家族へ説明し誤解が生じないようにする。
→介護サービス利用前に食事代、加算等をパンフレットや書面で提示し説明することで誤解や苦情はなかった。
- ②個人情報ファイル等は施錠できる書棚に保管し情報漏洩がないように十分配慮する。
→利用者のファイルは鍵付き書棚に収納し個人情報漏洩防止に努めた。
- ③ヒヤリハット・事故・苦情があった場合は、即その改善方法の検討会を実施する。
→ヒヤリハット 0 件・事故 0 件・苦情 0 件、各介護支援専門員がヒヤリハット・苦情になる前に利用者、家族とコミュニケーションを密に取るように努めた。
- ④BCP 策定の支援等を目的に検討会、情報発信、研修、訓練を実施する。又、事業継続計画については、年 1 回帳票類を含め見直しする。
→在宅合同で検討会 2 回、机上訓練 3 回実施（サービス利用中や移動中・訪問中を想定）や、沖縄市防災訓練に全職員参加した。沖縄市社会福祉協議会や沖縄市主催の BCP 研修と防災研修に参加した。管理者変更にともない帳票を変更した。
- ⑤虐待の防止委員会の開催、研修に参加し必要に応じて追加の臨時委員会を開催する。
→利用者全員に対し虐待発見チェックリストを作成し虐待の早期発見に努めた。在宅合同で委員会（3 回）を開催したほか沖縄市高齢者虐待防止講演会研修に参加した。

(5) 感染症予防対策・取り組み

- ①職員は自己・利用者の体調管理に努めると共に感染しない・させない取り組みを行う。
→5 月 1 名、8 月 1 名、事業所内で感染者がでたが感染拡大はなかった。出勤時と休憩前に検温と症状を記入、検温簿に記録する等防止対策に努めた。
- ②訪問前に利用者、家族の体調確認し、発熱等がないかを事前に把握する。
→訪問前に電話で利用者や家族の体調等を確認する等感染防止に努めた。
- ③感染状況に応じて在宅ワークでの事業運営を検討し事業の継続を図る。
→在宅ワークを行う程の感染状況には至らなかった。
- ④感染対策委員会の開催、研修や訓練の参加で感染症対策や予防に努める。年 1 回帳票類を含め見直しする。
→4 月、9 月、1 月に委員会を開催したことや感染症に係る業務継続計画研修に参加し感染予防に努めた。担当変更のため、帳票を修正した。

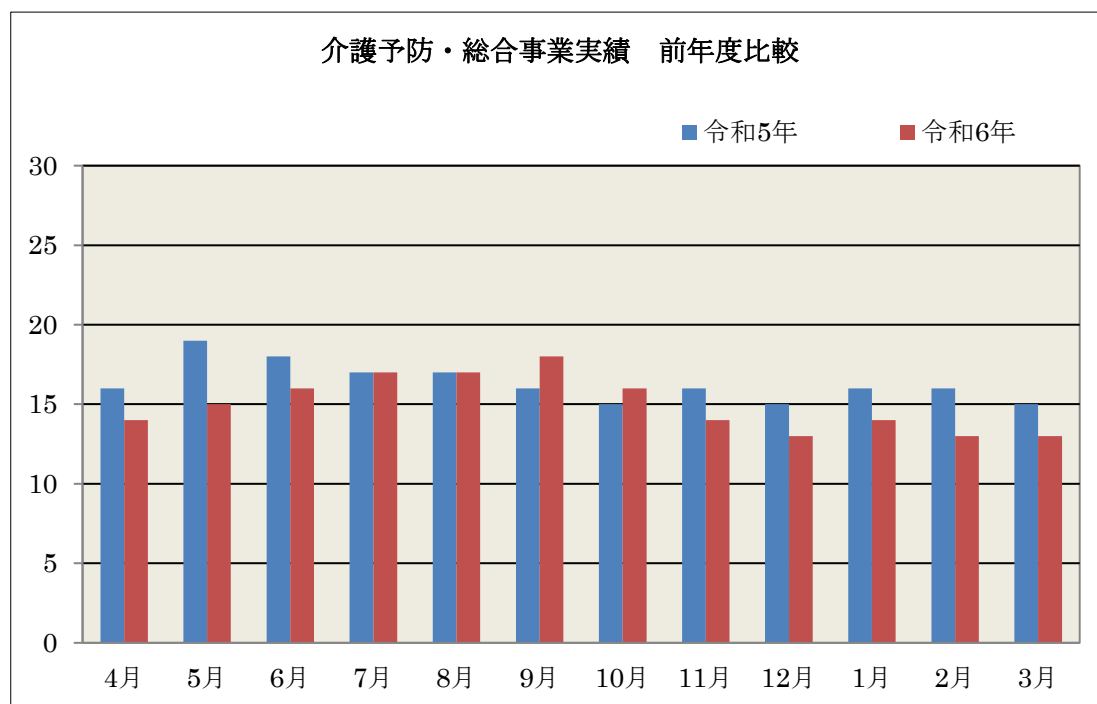
(定期部署内勉強会)

月	日	勉強会名	参加人数
4月	2日・8日・16日・23日・30日	事例検討会	4人
5月	7日・14日・21日・28日	事例検討会	4人
6月	4日・10日・20日・25日	事例検討会	5人
7月	1日・9日・16日・23日・29日	事例検討会	5人
8月	6日・13日・20日・27日	事例検討会	5人
9月	3日・10日・19日・24日	事例検討会	5人
10月	3日・8日・15日・23日・29日	事例検討会	5人
11月	5日・12日・19日・26日	事例検討会/地域ケア会議	5人
12月	3日・9日・17日・24日	事例検討会	5人
1月	7日・14日・21日・28日	事例検討会	5人
2月	4日・10日・17日・25日	事例検討会	5人
3月	5日・10日・18日・25日	事例検討会	5人

利用状況について

(1) 年間実績 (介護予防・総合事業)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
介護予防	12人	13人	13人	14人	14人	15人	14人
総合事業	2人	2人	3人	3人	3人	3人	2人
実績人数	14人	15人	16人	17人	17人	18人	16人

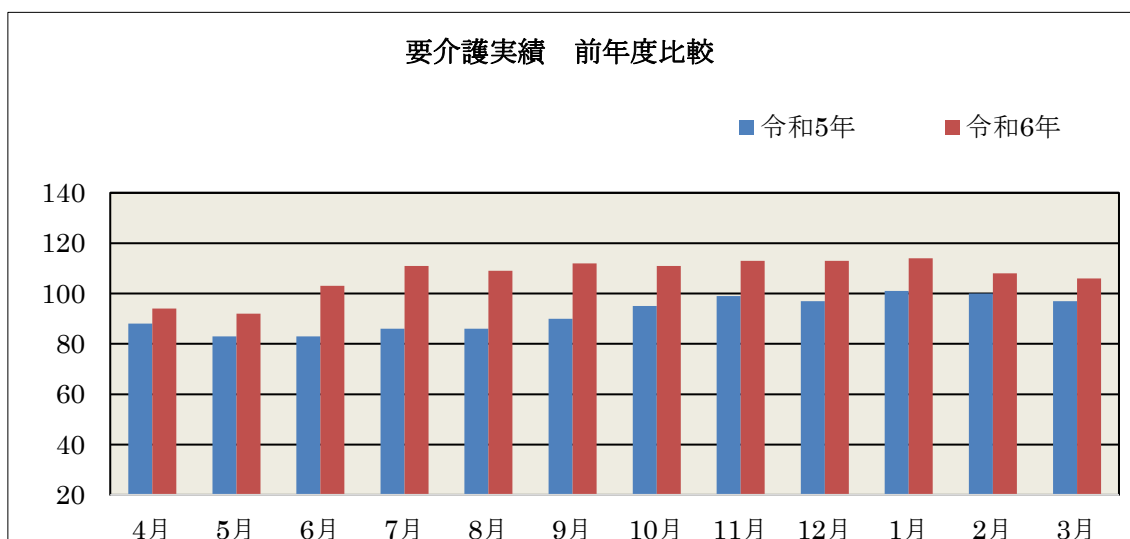


月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防	12人	11人	11人	11人	11人	151人
総合事業	2人	2人	3人	2人	2人	29人
実績人数	14人	13人	14人	13人	13人	180人

(2) 年間実績（要介護度 1～5）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者数	95人	93人	104人	114人	111人	112人	112人
実績人数	94人	92人	103人	111人	109人	112人	111人

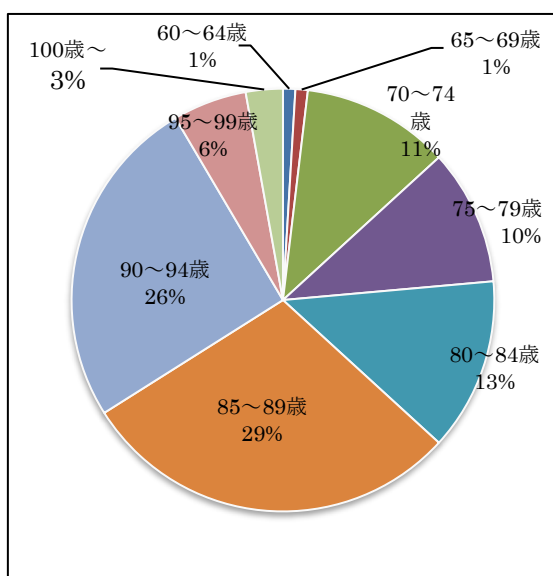
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	113人	113人	114人	108人	106人	1295人
実績人数	113人	113人	114人	108人	106人	1286人



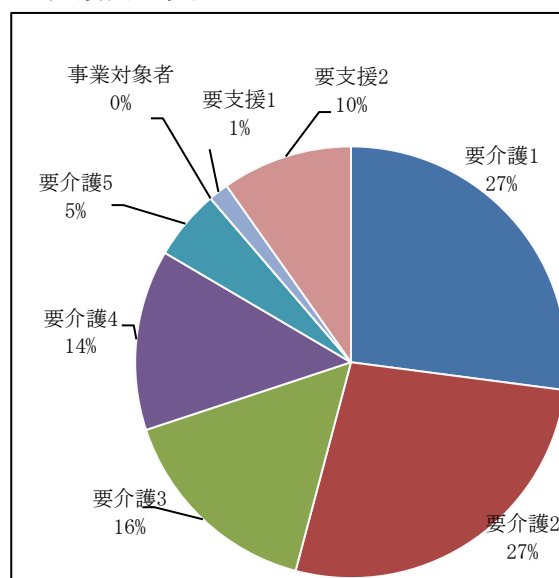
(3) 利用者性別・要介護度別・年齢別状況

R7 年 3 月現在

年齢別状況



介護度別状況



年齢	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
55～59 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
60～64 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	1 人
65～69 歳	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	1 人
70～74 歳	3 人	2 人	0 人	0 人	3 人	2 人	0 人	0 人	2 人	0 人	8 人	4 人	12 人
75～79 歳	2 人	1 人	0 人	2 人	1 人	2 人	1 人	1 人	0 人	1 人	4 人	7 人	11 人
80～84 歳	2 人	4 人	2 人	3 人	1 人	0 人	0 人	2 人	0 人	0 人	5 人	9 人	14 人
85～89 歳	3 人	10 人	3 人	6 人	3 人	2 人	1 人	2 人	1 人	0 人	11 人	20 人	31 人
90～94 歳	4 人	4 人	3 人	3 人	1 人	5 人	0 人	7 人	0 人	0 人	8 人	19 人	27 人
95～99 歳	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人	2 人	0 人	2 人	0 人	0 人	0	6 人	6 人
100 歳以上	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人	0 人	1 人	0 人	3 人	3 人
計	14 人	22 人	8 人	15 人	9 人	13 人	2 人	16 人	4 人	3 人	37 人	69 人	人
平均年齢	83 歳	86 歳	88 歳	86 歳	81 歳	87 歳	82 歳	91 歳	75 歳	80 歳	83 歳	86 歳	85 歳

沖縄市地域包括支援センター西部北 事業報告

1. 総括

西部北圏域（八重島・センター・胡屋・園田・中の町）の総人口は14,449人・高齢者数4,407人、高齢化率30.5%、後期高齢化率15.8%で高齢化率・後期高齢化率の割合いが他圏域と比較して一番高い圏域となっている。

令和6年度は地域ケア会議・総合相談等から①認知症高齢者の支援体制②身寄りのない高齢者の支援（住宅問題・施設入所・金銭管理等）③病院受診や入院時に支障がある（身寄りがいない・家族が疎遠等）、キーパーソン不在で転院や入所が難しい④フレイル介護予防⑤精神疾患やアルコール問題により虐待につながるケース等の個別課題に取り組んできた。

個別の課題に対し具体策として、①認知症サポーター養成講座を開催しサポーター、地域住民を増やす、認知症パネル展（市役所、私立図書館、銀行、公民館等）を開催した。②成年後見制度や沖縄市金銭管理事業（社協）へつなげた。③介護保険申請や各種手続きの支援。④市民健康課と保険事業と介護予防の一体的実施事業を行った。⑤関係機関（病院・保護課・地域支援担当・警察・保健所・自治会・民生員委員）と連携、継続支援を行った。

広報誌「ぬちぐすい新聞」の発行と法人のHPや広報誌「竹とんぼ」を活用し西部北圏域の自治会福祉連絡会、老人クラブの集会、関係団体の定例会や広報誌を置く情報ボックス（各銀行支店、観光協会、郵便局、薬局、FMコザ等）の開拓と定期巡回し職員や店舗利用者に法人事業の活動状況や包括支援センター事業内容・地域資源の情報等を発信・周知を行った。

✿各自治会 ＜福祉連絡会＞

	胡屋	中の町	センター	園田	八重島
4月		SC・実調	SC・実調		SC
5月	SC・実調	SC・実調	SC・実調	SC・実調	実調
6月	社福・SC・実調		SC・実調	SC・実調	実調
7月			SC・実調		SC・実調
8月				SC・実調	
9月	SC・実調	SC	実調	SC・実調	
10月				実調	
11月				実調	
12月	SC・実調	SC・実調	実調	SC・実調	SC・実調
1月	SC	実調	SC・実調	SC	SC・実調
2月	SC・実調	社福・SC・実調	SC	SC・実調	SC・実調
3月	SC・実調	SC	SC・実調	SC・実調	SC・実調・認知
合計	7件	7件	9件	10件	8件

❖第2層協議体

	開催件数	開催月
胡屋	0 件	—
中の町	0 件	—
センター	0 件	—
園田	1 件	4 月
八重島	0 件	—

2. 運営状況

令和6年度におけるプラン件数は包括西部北の件数は1,720件、委託先のプラン件数は534件となった。対前年度の件数値は包括西部北の件数は144件増加、委託先の件数は6件減となった。要介護が見込まれるケースや区分変更のケースについては委託事業所での調整を行った。包括西部北（全体）プラン件数・実績（前年度比較で138件増加）となった。

※（7）指定介護予防支援事業 参照

3. 事業状況

①地域包括支援センター西部北の地域ネットワーク構築について、インスタグラムの開設を通して多世代への周知とぬちぐすい講座・見守りサポーター養成講座の修了者に声かけし、今後の地区内の取り組みについて意見交換を実施し関係者、協力者の結成を図っていく。

⇒インスタグラムの開設については4月9月の期間は情報送信していたが、10月以降は職員退職に伴い休止する。

ぬちぐすい講座（見守りサポーター養成講座）については、5回開催した。

週1回の集会の場（ろ・は・す）は（毎週木日：午前10時～11時30分・ケアハウスはいびすかす会議室）、近隣の住民（高齢者5人～8人）で開催した（33回）。

②地域の課題の把握について、市役所からの高齢者の統計を共有し自治会ごとの高齢化率と実態把握調査のヒヤリング等の情報から福祉ニーズを把握し抽出した課題については市役所・自治会・民生委員等で協議解決を図る。

⇒11月13日（園田自治会・65歳以上の方対象）にて、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業として「体力測定」を行った。

12月3日（中の町自治会・サロン・紬の会）にて、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業として「骨粗鬆症対策で健康寿命を延ばそう」の講話を行った。

③職員の人材育成について、法人の研修、外部、有料研修やWEBを用いた研修を積極的に参加できるように受講環境等の整備を進める。

⇒認知症関係、三職種関係、介護支援専門員関係、第2層SC関係等研修には適宜研修に参加した。PDCAの机上訓練として、法人のデイサービス、ヘルパー学童の事業所で参加した。

④職員人材育成の将来的な確保として、大学、専門学校の実習生を受け入れ法人の各介護施設・介護事業所（特養ホーム・ケアハウス・通所介護・居宅介護支援事業所）と連携し学生の教育、育成に取り組む。

⇒ソーシャルワーク専門学校から社会福祉士・相談援助実習の受け入れ相談（調整見送る）ぐしかわ看護学校・地域在宅看護論実習Ⅰ（地域で生活する人々の健康と暮らしを支える看護の基礎的能力を養う）目的として、7月24日2名と25日2名・計4名を受け入れた。

4. 業務内容

（1）総合相談支援業務

① 地域におけるネットワークの構築

初期段階での相談対応を行い中核的機関としての役割として、相談内容に応じて関係機関と連携し適切な支援につなぎ対応した。専門職によるチーム支援を必要とする高齢者を見出し保健・医療・福祉・介護サービスや医療サービス等を適切に利用できるように、介護事業者、医療機関、民生児童委員協議会、社会福祉協議会等との関係機関と連携し高齢者支援のためにネットワーク構築を図った。

② 介護予防等把握

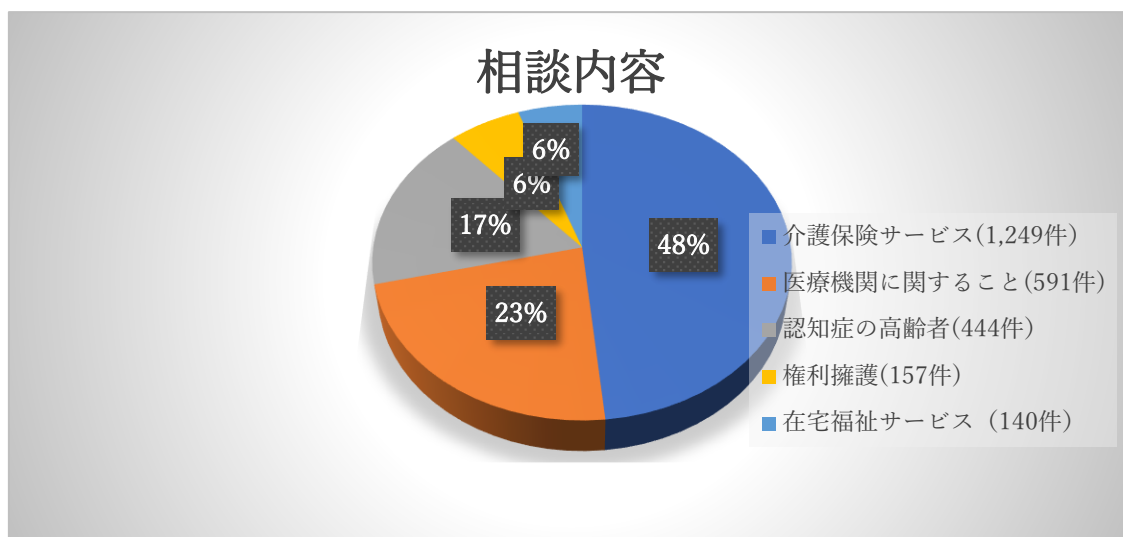
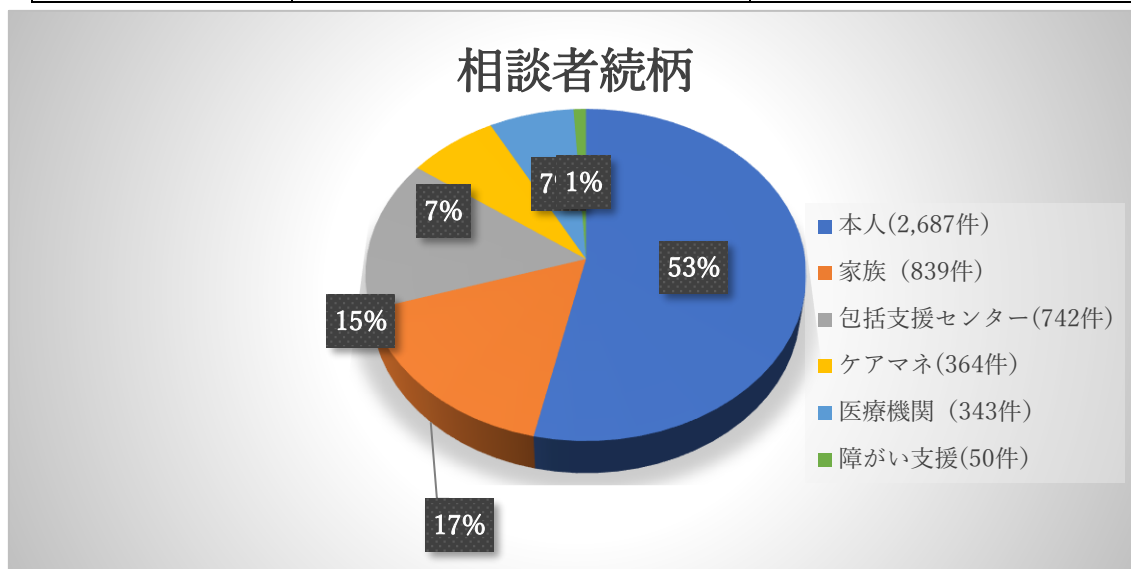
実態把握	延べ件数	実人数
令和5年度実績	506人	493人
令和6年度実績	599人	481人

沖縄市介護保険課からの訪問リストを基に65歳以上かつ介護認定を受けていない高齢者を訪問、またはポスティング（返信用封筒同封）にて、基本チェックリストで実態把握を行った。生活コーディネーターと連携し介護予防推進として、一般介護事業や通いの場への案内を行った。基本チェックリストや介護予防が必要な高齢者は三職種と関係機関（保護課、社会福祉協議会、民生委員等）と情報共有し必要なサービス（介護保険サービス、在宅福祉サービス、有料サービス、ボランティア等）を検討・提案した。高齢者が安心して在宅生活

を送れるように生活支援コーディネーターと情報共有しながら見守り支援を行った。

③ 総合相談支援

総合相談件数	実人数	延べ件数
令和5年度実績	2,271人	6,103件
令和6年度実績	2,708人	6,647件



相談実績は（相談者続柄別）：本人が最も多く、順に家族、地域包括支援センター、介護支援専門員、医療機関が多かった。（相談内容別）：介護保険サービスに関する事、医療機関に関する事順に認知症の高齢者、権利擁護、在宅福祉サービスに関する事の相談が多かった。本人、家族、地域からの相談を円滑に受け入れ介護保険、適切な制度、関係サービスにつなぐとともに継続的な相談支援を行った。

(2) 権利擁護業務

① 成年後見制度の利用促進 ②高齢者虐待への対応③消費者被害の防止

高齢者虐待の防止及び対応

虐待認定	虐待認定に至らなかった	虐待ではないと判断した	相談件数
3	0 件	0	3 0 件

老人福祉施設等への措置の支援

老人福祉施設等への措置の支援	支援件数
0	0

相談・通報者の内訳：本人 1 1 件、家族 1 件、介護支援専門員 1 件。介護保険課 7 件。障がい支援 1 件。虐待の対応においては早期発見・早期対応とし「高齢者虐待対応のマニュアル」に基づき速やかに事実確認・状況を把握し関係機関と連携を図り対応した。擁護者（アルコール依存症）の支援については警察・拘留期間終えてからの対応として、アルコール依存症治療、就活に向けて、医療機関、中部福祉保健所、市役所保護課、介護保険課と連携・継続支援を行った。高齢者虐待に関する支援のうち緊急度が高い事案については、高齢者虐待防止ネットワーク委員会の専門家を交え協議を行い支援方針で対応した。

権利擁護業務の内、①成年後見制度相談が 52 件となっている。身寄りない高齢者の病院入退院の調整、病院同行受診、不動産調整（家財処分）、金銭管理支援等を行った。③消費者被害の防止・消費者トラブルの情報発信は沖縄県消費生活センターのパンフレットを西部北事務所に回覧・掲示・案内を行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

基幹型包括支援センター、各地域型包括支援センターと協力し、介護支援専門員の資質向上を図るための研修会や勉強会を開催した。介護支援専門員からの相談（来所・電話）に対して、関係機関（インフォーマルサービス含む）との連携体制構築支援、介護支援専門員同志のネットワーク構築支援等を行った。介護支援専門員に対する困難ケースには関係機関や主治医との連携、個別地域ケア会議、同行訪問を行い包括的・継続的ケアマネジメントを介護支援専門員が実践できるようにサポートを行った。

(4) 在宅医療・介護連携推進事業に関する協力業務

中部地区医師会（在宅ゆい丸センター）主催による医療機関者とのネットワーク構築として「在宅医療・介護連携推進会議」に参加した。身寄りのない方への退院支援について「キーパーソンが存在・緊急連絡先の確保」、「転院・入居調整の困難」、「意思確認」、「責任所在」、「緊急対応・定期通院の対応」等の問題点が挙げられ、それに対するヒアリング調査に参加した。地域住民向けの勉強会では「あなたは最期をどのように迎えたいです

か?～想いをつづる命しるべ～」と相談会に参加し会場設営・資料作り・受付等の開催支援を行った。

(5) 生活支援体制整備事業に関する協力業務

自治会の福祉連絡会、老人クラブ定例会、高齢者サロン、地域の集いの場にて地域住民と情報交換を行い必要時「第2層協議体」を開催し、課題解決に向けて住民や関係者と協議を行った。「がんじゅうポイント活動」はマッチング相談を3件受けた。下肢が不自由なので、ごみ捨てのマッチングの依頼。聞き取りを行い依頼書を市役所へ提出したが、マッチング調整ができなかった。

(6) 介護予防ケアマネジメント

日常生活総合事業対象者及び要支援者に対して、介護予防ケアマネジメントを行い高齢者が有する能力に応じ自立した生活が営むことができるように取り組んだ。地域資源等インフォーマルサービスも含めた必要なサービスをマネジメントしている。新規の対象者には短期集中リハビリ教室・ハイサイ訪問等へ繋げられるように支援を行った。サービス調整会議から自立支援に資したサービス調整を行っている。介護予防支援及び介護予防ケアマネジメントの業務一部委託については新規の利用者を優先的に調整した。ケアプラン確認の中でサービスの必要性やインフォーマルサービス等の検討等を含め確認を行った。介護予防ケアマネジメントが自立支援に資するよう自立支援地域ケア会議を開催した。

(7) 指定介護予防支援事業

プラン件数	ケース件数
令和5年度実績	1, 576人 (事業対象者199人+要支援1, 373人)
令和6年度実績	1, 720人 (事業対象者180人+要支援1, 537人)

地域包括西部北（プラン件数）

	初回		継続		合計	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6
事業対象者	8	9	191	171	199	180
要支援1	22	15	537	548	559	563
要支援2	45	29	769	945	814	974
計	76	53	1,500	1,667	1,576	1,720

委託先（プラン件数）

	初回		継続		合計	
	R5	R6	R5	R6	R5	R6
事業対象者	0	0	10	4	10	4
要支援 1	5	12	155	179	10	191
要支援 2	22	18	347	318	369	336
計	28	30	512	504	540	534

（８）認知症総合支援事業

認知症の相談支援や支援体制の構築として、対象者の自宅訪問や病院受診の対応を行い相談支援、家族への支援、認知症初期集中支援チーム会議等に参加した。

認知症に関する普及啓発活動として認知症パネル展は西部北圏域で未開催の銀行等で（３回）開催した。他に２回予定していたが、調整できなく保留となった。認知症の人を支援する関係者間の連携として認知症サポーター養成講座は定時制の高校生や民生委員、老人クラブを対象に（３回）開催した。

自宅訪問	１０１件	病院受診	１１件
------	------	------	-----

認知症パネル展

コザ信用金庫 胡屋支店 ５月１３日～２４日	サンエー中の町タウン店 ７月１日～１２日
琉球銀行 コザ支店 ３月６日～１９日	

認知症サポーター養成講座

ももやま子ども食堂 ６月２０日	西部北地域見守りサポーター・民生委員 ３月２８日
胡屋老人クラブ 寿会 ９月２８日	

（９）地域ケア会議推進事業

総合相談、介護予防ケアマネジメント、介護支援専門員からの相談、認知症高齢者に関する相談等に対し個別事例の解決を目的とした個別地域ケア会議や自立支援方法や課題の解決策を検討する自立支援地域ケア会議を開催した。

地域の高齢者が健康でその人らしい暮らしができるように、「介護（認知・うつ病・運動機能）予防について、地域住民としてどのように介護予防に取り組めるか」をテーマに

自治会長、老人会長、民生委員、住民、地域関係者で圏域別地域ケア会議を開催し、沖縄市介護予防・日常生活支援総合事業の案内を行った。

地域ケア会議の回数

個別地域ケア会議	圏域別地域ケア会議
4 回	1 回

自立支援地域ケア会議の回数

西部北主催	基幹型主催
5 回	2 回

(10) 一般介護予防事業

一般高齢者に対する支援は、介護予防として住み慣れた地域で元気でいきいきと暮らせるために沖縄市の介護予防教室（高齢者パワーアップ教室、高齢者元気教室）や自治会のいきいき百歳体操に参加を推奨した。

その他・高齢者在宅福祉サービス

高齢者通院支援サービス事業、緊急通報システム設置事業、高齢者見守り体制整備（食の自立支援事業・配食サービス）に繋がった。

高齢者通院支援サービス事業	3 件
緊急通報システム設置事業	3 件
高齢者見守り体制整備事業（緊急医療情報キット配布）	1 1 件
食の自立支援事業（配食サービス）	1 件
ゆんたくコール	0 件

高齢者や家族が安心して在宅生活を継続維持するため、介護予防等把握業務の実態把握や関係機関（（保護課、社会福祉協議会、介護支援専門員、障がい者相談員、病院相談員、他支援機関）に情報共有し連携を行った。高齢者の生活の質の維持と家族の負担軽減を図れるようにサービスを検討し在宅福祉サービス調整会議から一人暮らしの高齢者・高齢世帯の方に対し日常生活支援（通院サービス事業、配食サービス事業、見守り、安否確認等）の支援に繋がった。

みどり学童クラブ 事業報告

1. 総括

令和 6 年度は新型コロナウイルスやインフルエンザに感染をした児童はいたが感染拡大はなく、学童クラブの開所に影響はなかった。今年度は学童クラブ指導員が積極的に小学校を訪問し学校との情報交換会や授業参観、運動会や学習発表会等を見学し学校での児童の様子を共有した。また、デイサービス利用者との定期的な交流や一番街でのハロウィン交流会や自治会主催の新春餅つき大会等地域との交流に参加した。

2. 運営状況

4 月は児童 51 名で事業開始、令和 6 年 3 月時点の児童数は 45 名であった。事業目標の「年度を通し児童在籍 40 名以上を目標とする」は達成することができた。

定員を上回る入園申し込みがあり高学年児童については「待機児童」として通知を出した。在園時児童数が維持したことや職員の退職があり待機児童の受け入れはできなかった。途中退会は 6 名（クラブ活動 3 名・習い事 2 名・その他 1 名）。

3. 事業状況

(1) サービスの質の向上

①施設環境について

- ・クラブでの児童の活動内容が保護者に伝わるように、写真や作品等の掲示をする。

→行事や通常の児童の様子を写真で掲示し活動状況が分かるようにした。

- ・児童の興味・関心度を捉えた遊びを展開する（端末機、遊具及び図書等の購入）

→児童に欲しい遊具や本等を聞き取り購入した。女子児童にマット運動が人気があることからマットを 2 組購入した。

②おやつについて

- ・アレルギー等に配慮する、栄養面や活動面から必要とされるおやつを提供する。

→児童のアレルギー状況を把握し、アレルギーがある児童に対しては別のおやつで対応をした。

③交流について

- ・同年齢や異年齢との交流や遊びを通し、自主性・協調性及び創造性を培う。

→ボール遊びでは児童同士でチーム編成を行い 1 年生～4 年生がゲームを通し交流を実施、児童自身のやりたいことの主張や皆と協調することを交流や遊びを通し培われた。

- ・高齢者と児童がふれあう交流の場を月 1 回計画、交流を通し「やさしさ・人の気持ちを汲み取る力」を培う。

→デイサービス利用者との交流会を月 1 回計画、2 回実施した月もあったが実施できない月（6 月）もあった。主にデイサービスの行事に参加し交流を行った。

④家庭や学校・関係機関との連携について

- ・相談や情報共有、学校行事への参加等学校との連携を積極的に行う。

→学校を訪問し、授業参観や運動会・発表会等を見学することで学童クラブとは違う児童の様子をみる事ができた。

- ・学童クラブ便りを月1回発行する。インスタグラムで学童クラブの様子を発信する。

→保護者に学童クラブ便りを月1回発行、児童の様子をSNSで配信した。

- ・保護者会を開催し、クラブ運営等の説明や意見交換を行い協力関係の構築に努める。

→7月と3月に保護者会を開催した。クラブの説明や意見交換を行った。

⑤ニーズの把握について

- ・保護者に対してアンケートを実施し、意見や要望等に対して改善に向け検討する。

→アンケートを実施（年1回）した、保護者の意見に対しては会議を開催し改善をした。

(2) 人員の確保及び人材育成

①支援員のスキルの向上について

- ・法人内外の研修に参加し、専門職としての知識・技能の習得、向上に努める。受講後は他の指導員と情報を共有する。

→沖縄市主催のキャリアアップ研修や障害児研修に担当者を派遣し専門職としての知識・技能の習得に努めた。

- ・部署内会議や・申し送り等を充実させ、情報共有やチームワークの連携を強化し、児童一人ひとりの指導がより細やかに行えるように全員で取り組む。

→できる限りお互いに情報を共有し児童の支援が密に細やかになるように努めた。

②発達支援が必要な児童の支援について

- ・児童の特性を踏まえ統一した支援を行う、必要時は学校や専門機関と連携を取り適切な支援につなげるように努める。

→指導員全員が児童の特性を把握し統一した支援が行えるように努めた。必要時は保護者や学校と情報交換や支援方法を検討し適切な支援に努めた。

(3) 業務改善

①児童の入退室、下校時等の記録等、ICT化について検討する。

→業者から説明を受けたが導入には至っていない。R7年度再度導入に向けて検討する。

(4) リスクマネジメント

①安全対策

- ・室内外の環境の安全性について毎日点検し、事故や怪我の防止をする。

→児童が登園する前にクラブ内外の点検を実施し安全に活動が行えるようにした。

- ・ヒヤリハットが出た際は職員間で共有し、事故に繋がらないようにする。

→ヒヤリハットが出た時点で情報を共有し事故防止に努めた。

②感染症対策

・児童に手洗いやうがいを励行するなど日常的に感染症予防や衛生管理に努める。

→児童自身が日常的に感染症予防に対する意識が持てるように手洗いやうがいを励行し、衛生管理に努めた。

③防災・防犯対策

・災害に合わせた研修の参加・訓練を実施し、災害時も事業継続ができるようにする。

→児童とともに法人や在宅サービスとの合同防災避難訓練に参加、6月、12月、3月に在宅サービス合同でBCP机上訓練を実施した（児童が学童クラブ利用中や送迎中等の地震を想定した訓練）

・外部からの不審者等の侵入防止の措置や、訓練を実施する。

・警察や学校と連携し不審者等の情報交換や実践的な対処法について確認する。

→子ども家庭課からのメールやFAXで届いた不審者情報を職員間で共有したことや、12月に防犯（不審者対応）訓練を実施した。

④児童虐待等への対応

・児童の心身の状態や家庭環境等に配慮し児童虐待の早期発見に努める。秘密保持に留意しながら必要時はこども家庭課と相談し適切な支援に繋がるようにする。

→児童の心身の状態について確認し職員間で情報を共有し早期発見に努めた。

⑤マスクの見直しについては個々の体調確認やその環境により判断をする。

→新型コロナウイルスが5類へ移行後は個々で判断している。学校では着用していないこともありほとんどの児童がマスク着用なしで過ごした。デイサービスとの交流時はマスクを着用し参加した。

4. 行事・活動等

（行事・イベント内容及び参加人数）

4月	諸見小学校訪問 職員顔合わせ (16日)	1名
	デイサービス交流 「新一年生お披露目会」 (17日)	13名
	室川小学校訪問 職員顔合わせ (18日)	1名
	園外活動 「美東公園」 (20日)	13名
	園外活動 「市民劇場あしびなー」 (27日)	13名
5月	デイサービス交流 「ゴーヤープロジェクト・ゴーヤー苗植え」 (10日)	2名
	園外活動 「美東公園」 (11日)	19名
	デイサービス交流「エイサー披露」 (27日)	10名
7月	デイサービス交流「七夕会」 (6日)	12名
	園外活動 「センター自治会・パントマイム」 (22日)	20名
	保護者説明会 (11日)	27名
	避難誘導訓練 (30日)	42名
8月	園外活動 遠足 「琉球村」 (8日)	47名

	デイサービス交流 「旧盆・エイサー披露」 (16 日)	12 名
	デイサービス交流 「夏まつり」 (27 日)	12 名
9 月	デイサービス交流「敬老会」 (13 日)	16 名
10 月	デイサービス交流 「運動会」 (21 日)	
	デイサービス交流 「ハロウィン仮装お披露目会」 (26 日)	38 名
	園外活動 ゲート通り・一番街イベント「ハロウィンまつり」 (26 日)	38 名
11 月	デイサービス交流「誕生会」 (27 日)	16 名
	諸見小学校 「報告会」 (29 日)	1 名
12 月	防犯訓練 (16 日)	29 名
	デイサービス交流 「クリスマス・忘年会」 (25 日)	2 名
	年末お楽しみ会 (27 日)	42 名
	園外活動 「中城公園」 (28 日)	14 名
1 月	デイサービス交流 「新年会」 (4 日)	2 名
	デイサービス交流 「誕生会」 (23 日)	6 名
	園外活動 一番街 「センター自治会・餅つき」 (25 日)	6 名
2 月	デイサービス交流 「誕生会」 (18 日)	5 名
	保護者説明会 (新入園児童保護者) (27 日)	8 名
3 月	防災避難訓練 (12 日)	32 名
	学童畑 「じゃがいも収穫」 (17 日)	15 名
	カレーパーティー (19 日)	41 名
	園外活動 「美東公園」 (22 日)	12 名
	デイサービス交流 「誕生会」 (25 日)	9 名
	お別れ会 (28 日)	39 名
	園外活動 「中城公園」 (29 日)	13 名

(職員研修、勉強会等)

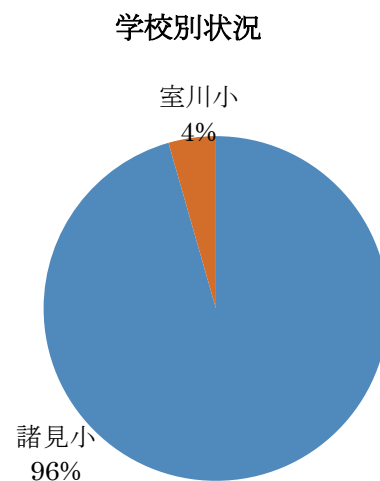
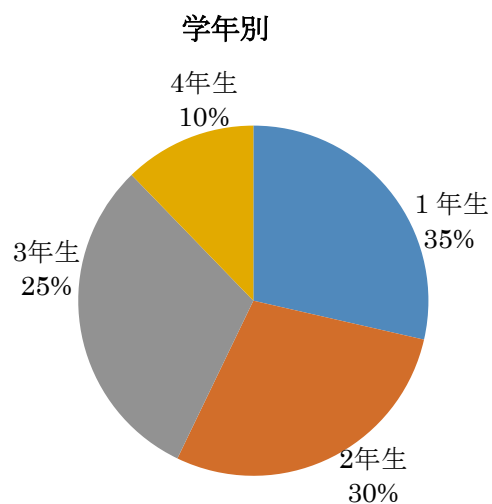
月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
7 月 11 日	沖縄市民会館 (中ホール)	放課後児童クラブ「会計者研修」	2 名
6 月 25 日	沖縄市民会館 (中ホール)	キャリアアップ研修「保護者・学校・地域連携について」	1 名
8 月 2 日	デイサービス	安全運転講習会	2 名
10 月 3 日	学童クラブ (リモート)	沖縄市放課後児童クラブ連絡会	2 名
10 月 17 日	沖縄市民会館 (中ホール)	障害児加配担当者研修「気になる子どもの理解と対応」	2 名
11 月 4 日	沖縄キリスト短期大学	子どもの居場所を考えるフォーラム	1 名
11 月 21 日	沖縄市民会館 (中ホール)	キャリアアップ研修「私とあなたとの境界線」	1 名
12 月 6 日	沖縄市民会館 (中ホール)	障害児加配担当者研修「遊びながら繋がる保護者支援」	2 名
1 月 10 日	沖縄県総合福祉センター	放課後児童クラブ支援員認定資格研修	1 名
1 月 20 日	沖縄県総合福祉センター	放課後児童クラブ支援員認定資格研修	1 名
1 月 30 日	沖縄市民会館 (中ホール)	キャリアアップ研修「安全計画について」	1 名
2 月 5 日	沖縄県総合福祉センター	放課後児童クラブ認定資格研修	1 名
2 月 12 日	沖縄県総合福祉センター	放課後児童クラブ認定資格研修	1 名
2 月 14 日	沖縄県総合福祉センター	放課後児童クラブ認定資格研修	1 名

5. 利用状況について

(1) 年間実績（利用日数）

開所 日数	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	25 日	24 日	25 日	26 日	26 日	23 日	26 日	24 日	24 日	23 日	22 日	24 日
小 1	15	15	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13
小 2	15	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	11
小 3	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
小 4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
小 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	51	50	49	49	49	49	49	48	47	47	47	45

(2) 児童の学年別、学校別の状況



(3) 入・退園状況

	入会	退 会				
	小学生	クラブ活動	家庭保育	習い事	その他	計
4 月	51	0	0	0	1	1
5 月	0	0	0	1	0	1
6 月	0	0	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0	0	0
8 月	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0
10 月	0	0	0	1	0	1
11 月	0	1	0	0	0	1
12 月	0	0	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0	0	0
2 月	0	2	0	0	0	2
3 月	0	0	0	0	0	0
合計	51	3	1	2	1	6

ケアハウスはいびすかす

ケアハウスはいびすかす 事業報告

1. 総括

介護員の長期入院や急な体調不良による欠勤等で慢性的に人員不足が続き、施設長・管理係長・機能訓練員が日々フロアに入り利用者対応したが、大幅な超勤削減には至らなかった。レク活動は主に体操を実施。又、経年劣化に伴うクーラーや消防機器・冷蔵庫・居室等のトイレセンサーの不具合があり修繕費がかさんだ。館内の照明が暗かったが、LEDに切り替えた事で明るくなった。電気料は、前年度の平均単価が 349 円に対し、今年度は 360 円と上がった事もあり、大幅な節電には至らなかった。職員採用は 10 名（介護員は 6 名）。その内 2 名は、はいびすかすを退職した介護員が再入社した。退職者は 11 名。その内、介護員は 6 名。定年退職者 1 名については、引き続き契約職員として再雇用した。

2. 運営状況

今年度は毎月 1 日付 50 名の定員を維持できた。7 月に利用者 6 名・職員 1 名が、新型コロナウイルス感染症に罹患するも、他利用者等への感染はなく 10 日間で終息した。8 月には、介護老人福祉施設緑樹苑と連携し要介護度 2 の認定になった利用者を受け入れ、サービスに支障がないよう努めた。稼働率は、様々な症状（サーチ低下・肺炎・骨折・脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・急性腎盂腎炎・尿路感染症・肝硬変等）で、利用者の入院（月平均 6 名）が相次ぎ、94.0%（目標 97.0%）となった。退去者は 15 名（10 名は死去。うち 2 名看取り。平均年齢 90 歳。平均要介護度 4）であった。

3. 実施内容

(1) 利用者サービス

①活動

・日々、集団体操やカラオケ、屋外活動で心身のリフレッシュを図る。

実施

11 月 24 日より、カラオケを各フロア持ち回りにし、他のレク活動も取り入れる工夫をする事ができた。屋外活動は、人員不足により未実施。

②機能訓練

・専門職による個別機能訓練を実施する。又、LIFE に 3 ヶ月に 1 回データーを提出しフィードバックで ADL を評価し訓練に活かす。

実施

請求は 5 月より開始。8 月から新 LIFE へ移行しデーターを提出できた。フィードバックは、全国平均値と当施設との比較が送信されてきた。

③食事

・嗜好調査結果を献立に取り入れる。又、その状態にあった食事を提供し、できるだけ残食

が少ないように工夫する。

未実施

嗜好調査はできなかったが、新メニューを取り入れ献立を工夫する事ができた。母の日等の昼食に手作りのメッセージカードを添えたり、5/8 はゴーヤーチャンプルー、土用丑の日にはうなぎ丼を提供するなど、季節に応じた献立を取り入れ利用者に喜ばれた。又、出来上がり重量から平均残食量を算定したところ、喫食率は 83%であった。

④口腔ケア

- ・食後の口腔ケアで清潔を保つ。歯科衛生士による介護員への指導を年 2 回取り入れる。

未実施

歯科衛生士に打診したところ、まだ感染が終息していないとの事で取り組まなかった。

⑤服薬管理

- ・ご家族様に定期受診付き添いを依頼し、その定期薬はできるだけ専門職が管理する。服薬の際は二重チェックを心掛け誤薬を防ぐ。

実施

ご家族様が、定期受診付き添いできた。看護師が、定期薬を管理できた。看護師が不在の時は、介護員で二重チェックできた。

⑥衛生の保持

- ・入浴で清潔を保ち皮膚の状態を観察する。

実施 おおむね週 3 回を実施できた。

⑦行事

- ・誕生会や敬老会等でプレゼントを渡し、余興などで盛り上げる。

実施

面会を解除していた時期に母の日会を実施し、訪れたご家族に声かけしたところ、2 組のご家族が参加した。敬老会にも 1 組のご家族が参加した。

⑧面会や外出

- ・マスク着用等、一定のルールを順守し実施する。又、帰所時は手指の消毒を実施する。

実施

帰所時は手指の消毒を実施できた。インフルエンザやコロナ感染状況が減少した事を受け、5 月 1 日より外出を許可。その後、コロナ感染者が増加してきた事を受け、5 月 20 日より面会を制限（15 分。2 名迄）した。3 月部内会議にて、インフルエンザ警報が解除された事を受け、面会（30 分）や外出・外泊制限を緩和した。

⑨看取り

- ・本人やご家族様の意向を確認した上、訪問診療や訪問看護を利用し状態の変化に迅速に対応する。

実施

利用者 2 名が、訪問診療・訪問看護を利用し最期まで住み慣れた施設でお亡くなりになっ

た。

(2) 人材育成と職員採用

①新人職員の指導

- ・役職員が中心になり、業務内容を丁寧に指導していく。

実施

同僚が適切な助言ができた。7月からは役職員が日中勤務する事で、記録の重要性など内容を確認・指導しながら業務を遂行した。

②コミュニケーション

- ・挨拶を徹底し、互いに思いやりをもって接し業務を遂行する。

実施

体調不良で急な休みが出た場合など、互いに思いやりをもって勤務変更に応じ、利用者サービスを遂行できた。

③フロア会議等や委員会の実施

- ・毎月実施する。利用者の情報を共有し統一した見解の下サービスを提供する。

実施 別紙資料参照

④研修

- ・法人の研修委員会で計画された研修や県内外の研修に参加し、介護技術などの知識習得に努める。

実施。

8月8日～ 12月20日	はいびすかす	認知症コミュニケーションアプローチ研修(全8回)	3名
10月2日～ 10月4日	東京ビッグサイト (東京)	国際福祉機器展	2名
10月31日～ 11月21日	うるま市生涯学 習・文化振興セン ターゆらてく	介護職のための生理学入門	3名
11月9日	沖縄県社会福祉協 議会	令和6年度 沖縄県老人福祉施設研究大会	2名
12月16日	オンライン (Zoom)	リスクマネジャー養成講座2024	1名
12月25日	オンデマンド配信	社会福祉施設等給食担当職員研修	1名
1月16日	オンライン	令和6年度 質の高い福祉サービスを提供するための実践改善・業務効率化セミナー	1名
	E-ラーニング	認知症介護基礎研修	7名

⑤資格取得

- ・キャリアパスを意識し、介護福祉士等の資格取得を目指す。又、その費用を助成する。介護員の無資格者は認知症介護基礎研修受講する。

実施

職員 2 名が実務者研修を受講。その費用を助成した。無資格者は全員、認知症介護基礎研修を受講した。介護福祉士の資格取得者はいなかった。

⑥職員採用

- ・ハローワークや求人誌等を活用する。又、職員紹介も募り採用を図る。

実施

介護員の採用は、HP や職員紹介等で 5 名（常勤 4 名。パート 1 名）採用した。

⑦離職者防止

- ・役職員が中心になり、職員の声に耳を傾け問題を解決し離職者を防止する。

実施

慢性的な人手不足に対処する事と、深夜勤は各フロア 1 名体制で休憩が取りづらい状況であったが、7 月から準夜勤と深夜勤の通し勤務を実施し 4 名体制にした事で休憩や救急対応に迅速に対応できるようになり、夜間帯の労働環境が改善した。又、役職員を日中に配置し、利用者サービスの推進及び多職種との連携に努めた。離職者は、家庭の事情・労働条件の相違等の理由で 7 名（常勤 6 名。パート 1 名契約満了）となった。

(3) 施設整備

①居室の環境整備

- ・ご家族の協力も得ながら、整理整頓を心掛ける。

未実施

面会制限を解除していたが、再び、県内のコロナ感染者が増える傾向にあり、5 月から面会を制限した為できなかった。

②保守点検

- ・業者による定期点検を実施する。

実施

電気設備点検は、5, 7, 9, 11, R7.1, 3 月。エレベーター点検は毎月。消防機器点検は、8, R7.1, 3 月に実施できた。

③クーラーやカーテン清掃

- ・業者による定期清掃を実施する。

実施 5 月、クーラー清掃を実施できた。

④設備・備品

- ・経年劣化した設備や備品等は、必要に応じ相見積もりを取り、買い替えや修繕を行う。

実施

クーラーや居室等のトイレセンサーの不具合・ウォシュレットの故障・水が流れにくい箇所は取り換えた。

⑤職員の負担軽減

- ・腰痛予防で介護機器を導入する。

未実施

昨年から生産性向上に取り組んでいる委員が、県内外の介護機器展視察や業者との意見交換を得て、見守りデモ機器を試験的に導入したが購入には至らず、他の機器も試してみたこともあり、継続して検討することとなった。

⑥光熱費の節減

- ・電気代高騰を見据え、館内の照明をLEDに切り替える。又、不要な箇所は電源を切る。

実施

7月、館内の照明をLEDに切り替えた。電気料は、単価が前年度より上がった事もあり大幅な節電には至らなかった。

(4) 防災対策

①消防訓練

- ・自主防災訓練を2ヵ月に1回実施する。又、沖縄市消防本部に消防訓練計画を提出し、年2回の総合訓練（地域との連携含む）を実施する。

実施

自主防災訓練は人員不足で未実施。年2回の総合訓練のうち1回は、地域との連携で沖縄市消防団団員3名も参加し実施できた。

②厨房内点検

- ・火元責任者を中心に、日々の点検を実施する。

実施

遅番勤務の調理員が、元栓の締め忘れがないか確認し退勤した。また毎月、食品衛生に関する事項（手指消毒、廃棄物処理、清掃、検便等）を、自主点検できた。

③災害時の備え

- ・台風

テレビ等で予報を確認し事前に浸水しないよう予防する。屋外のイスなどは飛ばされないよう片付ける。

実施

事前に情報を共有し、サッシ下に新聞紙を詰め吹込みがないように対策した。

- ・地震

転倒者や火の元・建物に異常がないか確認する。居室内は、利用者やご家族様に理解を求め、身の丈より高い物を置かない。タンス上に物が置かれている場合は撤去する。

未実施

面会制限もあり居室の整理整頓はできなかった。

(5) 感染対策

①体温測定

- ・出勤前に体温計で平熱を確認する。

実施 全職員、平熱を確認できた。

②手指消毒の徹底

- ・手洗いやワンケアワンプッシュを実践し衛生を保つ。ケアの際は手袋を着用する。

実施 手洗いやワンケアワンプッシュを実施できた。

③ワクチン接種の推進

- ・インフルエンザワクチン等の予防接種を促す。

実施 インフルエンザ予防接種は、ご家族と一緒に病院付き添いされ 40 名、新型コロナ予防接種者は 9 名、実施できた。

④新型コロナウイルス感染者への対応

- ・行政の指針に基づき必要期間隔離する。又、罹患者を想定した訓練を実施する。

実施

7 月に利用者 6 名・職員 1 名が、新型コロナウイルス感染症に罹患するも、他利用者等への感染はなく 10 日間で終息した。又、業務継続計画に基づき看護師が主導し介護員とレッドゾーン確保・ガウン脱着などの訓練を行った。

⑤備蓄の確保

- ・感染予防具は消費次第発注し、常に在庫を確保する。

実施。

(6) 委員会

※後半に記載

(7) その他

①地域住民へ憩いの場の提供

・地域包括支援センター西部北主導の高齢者サロン（名称：ろ・は・す）へ、毎週木曜日会議室を開放する。

実施

開催回数 43 回。延べ利用者数 287 名、平均約 7 名の地域住民が集い交流した。

②加算の取得

- ・科学的介護推進体制加算や個別機能訓練加算Ⅱを取得する。

実施 両加算を 5 月から請求できた。

③夜間等緊急時の対応

・マニュアルに沿い意識レベルを確認し対応。夜間オンコールサービス（Dr メイト）も活用する。

実施

夜間オンコールサービスの使用回数は 47 件。内、44 件は発熱等の経過観察対応だった。3 件は救急搬送。又、最も使用頻度の多かった時間帯は 0 時～7 時。次に 7 時～20 時だった。ほぼ経過観察で、職員が十分に意識レベルを確認できると判断した為、7 月で契約満了となり更新はしなかった。

④令和 6 年度沖縄県老人福祉施設職員研究大会

実施 係員として職員 1 名を派遣できた。

入退去状況

(単位：人)

	入 居			退 去				
	在宅	施設	計	死亡	医療機関	他施設	居宅	計
4月	1	0	1	1	0	0	0	1
5月	1	0	1	1	0	0	0	1
6月	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	1	0	1
8月	1	1	2	1	0	0	0	1
9月	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	2	2	4	2	2	0	0	4
12月	1	0	1	0	0	1	0	1
1月	1	0	1	0	1	0	0	1
2月	1	1	2	2	0	0	0	2
3月	0	0	0	2	1	1	0	4
合計	8	4	12	9	4	3	0	16

入居者の性別、年齢別、要介護度別の状況

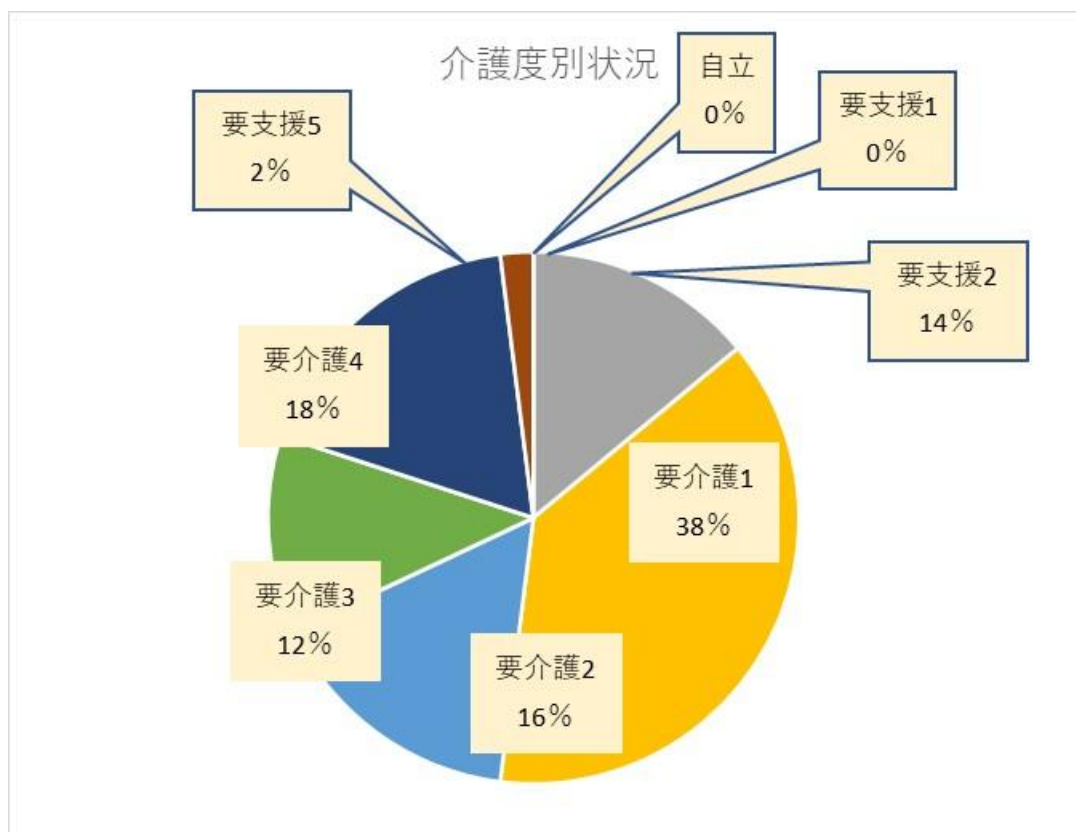
(単位：人)

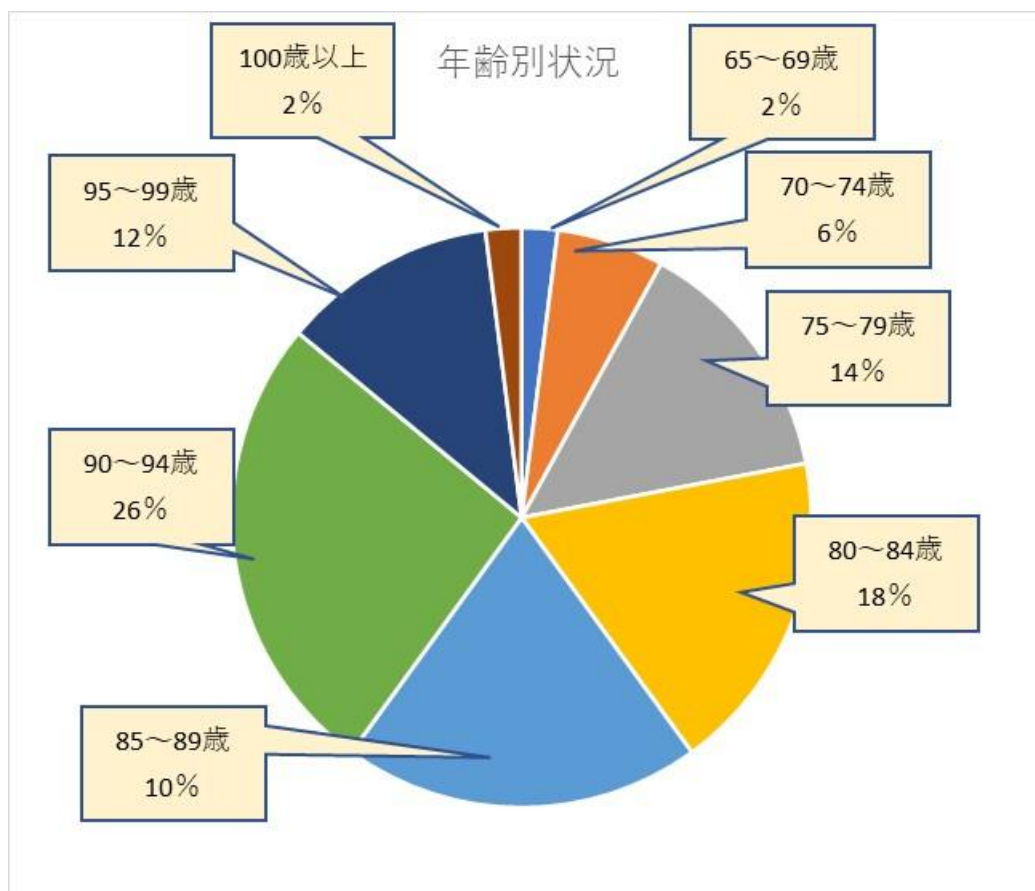
令和6年度	自 立		要支援 1		要支援 2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	1	0	1	0	1
70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～84歳	0	0	0	0	2	1	2	1	3
85～89歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90～94歳	0	0	0	0	0	2	0	2	2
95～99歳	0	0	0	0	0	1	0	1	1
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	3	4	3	4	7
平均年齢	0	0	0	0	76	92	76	92	85

(単位：人)

令和6年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74歳	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	2	1	3
75～79歳	2	1	0	1	0	1	1	1	0	0	3	4	7
80～84歳	1	2	0	0	0	1	0	2	0	0	1	5	6
85～89歳	1	6	0	2	0	1	0	0	0	0	1	9	10
90～94歳	1	2	0	3	0	1	0	4	0	0	1	10	11
95～99歳	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	4	5
100歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
計	6	13	2	6	0	6	1	8	0	1	9	34	43
平均年齢	85	88	71	88	0	84	76	89	0	100	81	88	86

- ・最高年齢 100 歳、最小年齢 65 歳
- ・平均年齢：男性 80 歳、女性 88 歳、計 86 歳
- ・平均介護度：2.2





月間利用入居実績前年度比較



会議・勉強会

月 日	場 所	会議・勉強会	参加人数
4月4日	3階フロア	3階フロアミーティング	6名
4月5日	会議室	主任会議	5名
4月17日	会議室	部内会議	8名
4月27日	2階フロア	2階フロアミーティング	4名
4月29日	4階フロア	4階フロアミーティング	8名
5月30日	3階フロア	3階フロアミーティング	5名
6月7日	2階フロア	2階フロアミーティング	4名
6月10日	4階フロア	4階フロアミーティング	8名
7月7日		褥瘡について（勉強会）	3名
7月12日	4階フロア	4階フロアミーティング	6名
7月15日	2階フロア	2階フロアミーティング	3名
7月31日	3階フロア	コロナウイルス蔓延を想定しての訓練	9名
9月1日	4階フロア	身体拘束について（勉強会）	4名
9月8日	3階フロア	3階フロアミーティング	4名
9月15日	2階フロア	2階フロアミーティング	4名
10月17日	3階フロア	3階フロアミーティング	7名
10月18日	厨房	厨房ミーティング	6名
10月24日	4階フロア	4階フロアミーティング	5名
10月27日	2階フロア	2階フロアミーティング	5名
11月14日	3階フロア	主任会議	3名
11月15日	3階フロア	3階フロアミーティング	5名
12月3日	4階フロア	4階フロアミーティング	6名
12月23日	厨房	厨房ミーティング	6名
12月30日	3階フロア	3階フロアミーティング	5名
1月10日	会議室	部内会議	9名
3月10日	4階フロア	コロナウイルス蔓延を想定しての訓練	7名
3月27日	3階フロア	3階フロア会議	6名
3月28日	4階フロア	部内会議	6名

各種委員会

月 日	場 所	会議・勉強会	参加人数
4月12日	はいびすかす	入居検討会議	8名
4月26日	はいびすかす	感染委員会	5名
5月2日	はいびすかす	入居検討会議	7名
5月20日	はいびすかす	感染委員会	5名
7月7日	はいびすかす	褥瘡委員会	3名
7月24日	はいびすかす	入居検討会議	8名
7月31日	はいびすかす	感染委員会	9名
9月1日	はいびすかす	高齢者虐待防止委員会	4名
9月1日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	4名
10月8日	はいびすかす	褥瘡委員会	3名
10月14日	はいびすかす	褥瘡委員会	3名
10月23日	はいびすかす	防災委員会	5名
11月20日	はいびすかす	行事委員会	6名
1月15日	はいびすかす	感染委員会	6名
1月30日	はいびすかす	事故防止委員会	5名
1月30日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	5名
2月27日	はいびすかす	高齢者虐待防止委員会	6名
2月27日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	6名
2月28日	はいびすかす	防災委員会	5名
3月10日	はいびすかす	感染症委員会	7名
3月30日	はいびすかす	身体拘束適正化検討委員会	6名

行事実施状況

月	行事・イベント名	参加人数
4月	散髪（24日・25日）	21名
5月	母の日会（10日）	46名
	散髪（23日）	12名
6月	父の日会（14日）	44名
	散髪（26日・27日）	18名

7 月	散髪（24 日・25 日）	15 名
8 月	散髪（28 日・29 日）	19 名
9 月	敬老会（13 日）	50 名
	散髪（26 日・27 日）	10 名
10 月	消防訓練（23 日）	47 名
	運動会（25 日）	49 名
	散髪（23 日・24 日）	24 名
11 月	散髪（27 日・28 日）	16 名
12 月	クリスマス忘年会（25 日）	47 名
	散髪（25 日・26 日）	12 名
1 月	新春お茶会（9 日）	31 名
	散髪（22 日・23 日）	19 名
2 月	散髪（26 日・27 日）	18 名
2 月	消防訓練（28 日）	45 名
3 月	散髪（26 日・27 日）	18 名

レク活動

クラブ名	回数	参加人数（1 回あたり）
ミニシアター	8	15 名
おやつ会	7	10 名

ケアハウスていんさぐぬ花

ケアハウスていんさぐぬ花 事業報告

1. 総括

利用者サービスは、日々の体操やレク活動、口腔ケア、入浴の実施で身体の清潔の保持に努めた。利用者1名インフルエンザ感染があった。新型コロナウイルス利用者感染なし。看護師1名(4月)罹患、調理員4名(7月)罹患、施設内コロナ感染症予防対策を実施しながら対応した。職員5名陽性にて他職員に超勤対応が生じた。標準感染予防策を周知し感染予防に努めた。状況をみながら面会制限を実施。面会は継続して居室内及び各フロアにて実施し、面会者の人数が多い場合は1階リハビリ室で対応した。

行事では、コロナ5類移行後、浜下りの苑外活動ができ利用者に喜ばれた。敬老会は寿迎者(新百歳1名、風車1名、生年祝6名)及び利用者合同での御祝いでき、アルバム(写真)を送付した。

家族の希望にて1名、緑樹会特養へ調整し入所となった。

2. 運営状況

毎月1日付け定員50名(内1名は自立)は維持できた。入退去相談は、一人暮らしが困難な方やご家族で介護する事が困難な方などを優先に入居に繋げた。又、入院し継続して治療が必要で退院の目途がつかない利用者の円滑な退去に努めるとともに、緑樹苑特養及び、他特養を希望されている方については、各関係機関と連携し円滑な退去に努めた。

看取りについては、利用者2名の方を訪問診療・訪問看護と連携し多職種連携にて実施した。

上半期稼働率については96.0%となり、前年度実績97.5%を下回った。下半期稼働率については94.9%となり、前年度実績93.5%を上回った。毎週土曜日に入居相談と入居契約を実施した為、毎月1日50名定員を確保することができ、令和6年度稼働率は95.5%と前年度と同様の稼働率となった。

利用者の入院(尿路感染症、肺炎、腎盂腎炎、摂食障害、骨折・リハビリ療養等)が月平均5名となり稼働率の向上に繋がらなかった。食事量・水分摂取量の管理、健康状態の把握確認、事故やヒヤリハットに繋がらないよう人感センサー等にて、多職種連携にて転倒予防に努めた。

事業所加算については、L I F E加算取得(科学的介護体制推進加算、個別機能訓練加算Ⅱ)、介護職員等処遇改善加算Ⅱを取得した。

3. 事業実績

稼働率95.5% (目標97.5%、前年度実績95.5%)

4. 事業状況

(1) 利用者サービス

①機能訓練とレク活動

身体機能維持の為、個別機能訓練計画に基づいた訓練や日々体操を中心とした集団活動及び、トランプや脳トレパズル、手工芸、カラオケ等の個別活動を実施。学童クラブとの交流、ボランティア等を受け入れ趣味活動の場及び交流の場を通して生きがいと楽しみが持てるよう支援する。

毎月の誕生会及び季節行事の開催にてご家族との交流を図り、苑外活動では浜下り・ミニドライブ・花見等実施。近隣の花々をみながらの散歩や、屋上庭園(季節の草花)にてリフレッシュを図る。

結果⇒各フロアにて体操及びレク、小グループにて脳トレグッズを活用して実施。機能訓練として苑外の草花や池(鯉)を觀賞しながら歩行訓練実施、苑外行事では浜下り実施。ミニドライブは、感染症及び天候の状況をみながら検討しましたが未実施。学童クラブとの交流は、感染症の状況をみて判断しましたが実施出来ず。ボランティアでは、お茶会で茶道の先生に指導頂き実施した。

②食事と栄養

利用者個々の身体状況や嗜好等調査・残食等確認し、利用者に合った食事の提供、食べる楽しさや満足を味わえるよう日々の食事・おやつ・季節行事食等を栄養士と連携しながら工夫する。

栄養状態を把握し、嚥下機能が低下している入居者が低栄養に陥らないよう栄養士と調整し工夫する。

結果⇒新メニューの(冷やし中華、魚の塩麹甘酢あんかけ、他 8 種類)提供等、利用者の好評を得た。食事摂取に障害がある方へ嗜好にあった高カロリー栄養補助食品を提供した。

③ICT・介護機器の活用

- ・タブレット端末で記録の充実を図る。
- ・状態の変化には、人感センサーや介護ロボット等を活用し事故防止を図る。
- ・介護機器等を選定し、職員の介護負担軽減・腰痛予防等に繋げる。

結果⇒新ソフト、ケアカルテ移行作業実施。タブレット端末での勉強会を実施しましたが新ソフト移行がスムーズに行えなかった。勉強会の回数を増やし実施していく。利用者の状態変化には、人感センサー、床センサー等活用し転倒予防や事故防止に繋げた。

県内外の介護機器展へ参加し、体験し自施設にあった機器(介護用アシストスーツ、見守りワイアレスセンサー、インカム、自助具)の選定を図り、介護負担軽減の為、デモンストレーション等も行いましたが機器の導入には至らなかった。

担当委員にて、10/2～10/4 の東京国際展示場で開催される国際介護機器展へ派遣し機器の検討をした。

④衛生の保持

・入浴や清拭等の実施

尿路感染症等、皮膚疾患予防の為、週 3 回の入浴を実施、利用者の状態に応じて清拭等実施する。

結果⇒尿路感染症(2 名)にて入院。急な休み等にて職員(体調不良、入院治療)足りない状況もあり、週 2 回入浴、実施する場合があった。

毎月、各フロアにて散髪実施できた。

・口腔ケアの実施

歯科医師、歯科衛生士より口腔ケアの指導の下に、誤嚥性肺炎や窒息等の防止に努め、健康維持・向上に繋げる。年 1 回、歯科衛生士を講師に招き口腔ケアの研修を実施する。

結果⇒食後口腔ケアの声かけ及び確認実施、重度要介護利用者については吸引器を活用し口腔ケアを実施した。歯科医の診察時に助言等受け、口腔衛生について意識を高め医師からの指導を職員同士で共有した。研修については、歯科医と調整がつかず未実施。

⑤救急搬送と看取り介護

重篤な状態にならないよう早期発見により適切な応急処置(心肺蘇生法・AED の活用等)を施し、早期受診し状態が悪化しないように努める。看取り介護については、利用者・ご家族と十分話し合い、訪問診療や訪問看護、各医療機関と連携し、人生の最終段階のサポートに取り組む。

24 時間医療相談・夜間オンコール代行サービスを活用し、利用者サービスの向上、職員の意識改革、介護負担軽減、離職防止に繋げる。

結果⇒看取り 2 名(女性、男性)

訪問診療(主治医)及び訪問看護との連携と、夜間オンコール代行サービス(ドクターメイト)を活用し、家族の協力のもと情報共有を図り多職種連携にて看取りを行った。

⑥科学的介護情報システム【L I F E】を活用し根拠に基づいた介護の実践科学的に妥当性のある指標などの現場からの収集・蓄積及び分析、分析の成果を現場にフィードバックすることで更なる科学的介護を推進することで、施設における介護全体のあり方や、利用者のケアのあり方を検討・改善することで働き方改革と利用者に対するサービスの質の向上を目指す。

結果⇒L I F E 実施。(科学的介護体制推進加算。個別機能訓練加算Ⅱ)フィードバックによる検討会は未実施。

(2) 感染症予防(新型コロナウイルス、インフルエンザ)等及び感染対策

①感染対策マニュアルに基づき、マスク・手袋・フェイスシールド・ガウン着用・手洗い・

アルコールによる手指消毒等の標準感染予防策を周知徹底し、テーブルやエレベーター等の消毒、換気を実施。

結果⇒インフルエンザ等が施設で発生時、マニュアルに基づき個室にて対応し、まん延防止を図った。

②職員は出勤前、自宅で平熱を確認。出勤時及び休憩後の平熱を確認・記録し、マスク等着用し就労する。

発熱、咳、頭痛、鼻水等症状がある場合は、上司と情報共有し業務調整を図る。

結果⇒自施設及び自宅での抗原検査実施。

感染症		コロナ	インフルエンザ
上半期	利用者	0	1
	職員	5	0
下半期	利用者	0	3
	職員	0	5
合計		5	9

③面会時(居室内、各フロア、1階リハビリ室等)、来訪者届の記載及び平熱等確認。

結果⇒面会者が多人数の場合は、フロア及びリハビリ室での面会とした。

面会時間 30 分。マスク着用、消毒、換気、県内の感染状況等、家族へ注意呼びかけた。外出・外泊についても家族の要望があれば、感染症の状況を確認し、外出先での感染予防を家族に注意喚起し実施した。

④利用者及び職員の健康診断の実施。

結果⇒利用者(12/26・33名)及び職員健康診断実施。

⑤行政と連携し新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施。(利用者)

結果⇒施設内での予防接種は出来なかった為、家族対応にて実施。

⑥インフルエンザ予防接種の実施。(利用者・職員)

結果⇒家族対応により実施。

⑦感染予防具、消毒液等備蓄品等の確保。

結果⇒確保済み。

⑧感染症予防対策委員会で、感染予防についての情報を共有し、迅速・適切な対応を図る。
クラスターとなった場合、職員の確保と対応についても情報を共有し、法人・県及び各関係機関との情報共有を図る。

結果⇒委員会を実施し多職種情報共有を図る。(別紙参照)

今年度、感染症クラスターなし。

⑨施設内で感染症の発生が確認された場合は面会を制限し、電話やビデオ通話、1F 事務所前でガラス越しもしくはアクリル板越しでの面会を実施する。

結果⇒感染症による面会制限はなかった。

⑩感染症対応事業継続計画（感染症発生時及び拡大時(クラスター)における）BCP の策定及び見直し、訓練の実施。

結果⇒BCP 研修及び訓練を実施した。 3/14(金)、3/28(金)。

クラスター経験を基に、計画を読み合わせしながら振り返り職員同士議論し、訓練では標準感染予防策及び備蓄品など確認し、課題や改善について施設内の環境に影響を及ぼす箇所を出来るだけ排除していくことが重要とし利用者の健康を守る為、職員ひとり一人が率先して清潔及び整理整頓、安全を身に付けることが重要と周知した。

(3) 防災対策

①月1回の防災訓練（DVD 視聴を含む）を実施。

結果⇒一部実施出来たが、職員欠員及び人数の足りない状況もあり毎月は行えなかった。

②年1回の沖縄市消防本部立ち合いの防災訓練を実施。

結果⇒避難訓練計画通知書を消防本部へ提出し実施。

実施日	内容	参加
1 月 20 日	地震・津波避難訓練	利用者・職員
2 月 21 日	総合防災訓練	利用者・職員
3 月 21 日	総合防災訓練	利用者・職員

③食料備蓄3日分の確保。

結果⇒確保済み。

④地域防災訓練への参加。(沖縄市防災訓練、自治会等)

結果⇒参加。

実施日	内容	参加
1 月 26 日	比屋根自治会防災・避難訓練	施設長

⑤自然災害事業継続計画（地震、台風、津波、水害、火災等災害発生時における）BCP の策定及び見直し、訓練の実施。

結果⇒BCP研修及び訓練を実施した。

実施日	内容	参加
3月14日	BCP研修及び訓練	介護・看護・PT、設長
3月28日	BCP研修及び訓練	介護・看護・PT、施設長

地震・津波避難、台風時の停電など施設での経験を基に、計画を読み合わせしながら振り返り職員同士議論し、訓練では備蓄品など確認した。

地震・津波避難の事例については、適切な情報をうけながら判断し利用者・職員の安全確保に努め被害を最小限にすることがなによりも重要であり、利用者・職員の命を守ることが最重要である。津波被害ではハザードマップを見ながらどのような被害状況に陥るのか施設周辺の状況を全員でイメージしながら説明した。台風災害時の停電についての実際の状況説明を実施し、停電時は自家発電が自動的に稼働することや、電気設備関係、通信関係、事務所内の連絡体制について、停電時の業務の優先順位など電気が復旧するまでの状況等、火災時に対応する為の消火栓・火災報知器・消火栓ポンプ・自家発電機・受水槽・雨水タンク・ガスタンク設置場所など施設内外を確認等、事務所内、マスターキーの位置や、照明器具のスイッチ等の説明など、緊急時の対応、夜間時パソコン不具合時の解消の仕方など説明し周知した。

（４）人材育成と採用

サービスの質の向上を目指し、以下の研修等を実施する。

①ネット配信研修システム等を活用した個別研修及び勉強会の実施。

勉強会：第2月曜日

施設内研修：第3月曜日

結果⇒苑内研修は、個々の勤務に合わせ実施。

内容

・身体拘束・虐待防止・権利擁護・感染症予防対策及び訓練・事故防止・KYT・5S・認知症ケア・看取りケア・メンタルヘルス・腰痛予防・防災・消防機器の取扱い・リフト車取扱い・緊急時対応・AED・契約書・重要事項説明書等）。

月	場 所	勉強会	参加人数
4月12日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い、尊厳の保持	12名
4月23日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い、尊厳の保持	4名
4月24日	ていんさぐぬ花	ケアカルテ導入説明会	3名
4月29日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い、尊厳の保持	2名
5月20日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い・尊厳の保持	2名
5月20日	ていんさぐぬ花	排泄ケアについて	10名
6月1日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い・尊厳の保持	1名

6月7日	ていんさぐぬ花	リーダーの役割	7名
6月7日	ていんさぐぬ花	新人職員・接遇、マナー	3名
6月8日	ていんさぐぬ花	新型コロナ感染状況・施設に求められる感染対策(医師会)	1名
6月9日	ていんさぐぬ花	リーダーの役割	2名
6月9日	ていんさぐぬ花	標準感染予防策	3名
6月17日	ていんさぐぬ花	標準感染予防策、接遇マナー、リーダーの役割	2名
6月21日	緑樹苑会議室	緊急時対応・AED	14名
7月22日	ていんさぐぬ花	緊急時対応、リフト車取扱い	9名
7月28日	ていんさぐぬ花	感染対策において求められるもの、接遇マナー	3名
8月1日	ていんさぐぬ花	個人情報取り扱い、尊厳の保持、接遇・マナー、標準感染予防策、感染症対策において求められるもの、食中毒の知識	4名
8月2日	ていんさぐぬ花	標準感染予防策、感染対策において求められるもの	2名
8月4日	ていんさぐぬ花	接遇・マナー	1名
8月4日	ていんさぐぬ花	標準感染予防策、感染対策において求められるもの、食中毒の知識	2名
8月5日	ていんさぐぬ花	感染症対策において求められるもの、食中毒の知識、処遇・マナー	2名
8月6日	ていんさぐぬ花	身体拘束の基礎知識、食中毒の知識 介護虐待を起こさせない為の基礎研修、身体拘束を行ってはいけない理由	5名
8月9日	ていんさぐぬ花	食中毒の知識、感染対策において求められるもの、身体拘束行ってはいけない理由	4名
8月14日	ていんさぐぬ花	感染対策において求められるもの、食中毒の知識、標準感染予防策	2名
8月15日	ていんさぐぬ花	介護虐待を起こさない為の基礎研修	3名
8月17日	ていんさぐぬ花	食中毒の知識	1名
8月20日	ていんさぐぬ花	介護虐待を起こさせないための基礎研修、身体拘束を行ってはいけない理由、身体拘束の基礎知識、緊急時対応、高齢者の転倒予防	1名
8月21日	ていんさぐぬ花	食中毒の知識、身体拘束を行ってはいけない理由、身体拘束の基礎知識、緊急時対応、高齢者の転倒予防	1名
8月21日	ていんさぐぬ花	感染症において求められるもの、標準感染予防策、食中毒の知識	3名
8月22日	ていんさぐぬ花	介護虐待を起こさせないための基礎研修、身体拘束の基礎知識	3名
8月22日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、身体拘束の基礎知識、緊急時対応、高齢者の転倒予防	1名
8月23日	ていんさぐぬ花	介護現場の衛生管理、職員の健康管理、	1名

		腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	
8月24日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、認知症者とのコミュニケーション法 1 バリデーション	1名
8月26日	ていんさぐぬ花	緊急時対応・リフト車取扱いについて	3名
8月28日	ていんさぐぬ花	緊急時対応、高齢者の転倒予防、介護現場の衛生管理	1名
8月29日	ていんさぐぬ花	身体拘束行ってはいけない理由、身体拘束の基礎知識、緊急時の対応、高齢者の転倒予防	2名
9月4日	ていんさぐぬ花	職員の健康管理、腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	1名
9月5日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由	1名
9月6日	ていんさぐぬ花	個人情報の取り扱い、尊厳の保持、接遇・マナー、職員の健康管理、腰痛予防対策と腰を痛めない介助法、緊急時の対応、高齢者の転倒予防	3名
9月7日	ていんさぐぬ花	介護現場の衛生管理、職員の健康管理、腰痛予防対策と腰を痛めない介助法、身体拘束を行ってはいけない理由	2名
9月7日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、認知症者とのコミュニケーション法 1・バリデーション	2名
9月9日	ていんさぐぬ花	緊急時の対応、高齢者の転倒予防	1名
9月12日	はいびすかす	介護機器説明会	1名
9月13日	ていんさぐぬ花	高齢者虐待防止に関する理解について	12名
9月14日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、認知症者とのコミュニケーション法 1、バリデーション	1名
9月27日	ていんさぐぬ花	介護現場の衛生管理、腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	1名
9月28日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、職員の健康管理 認知症者とのコミュニケーション法 1 バリデーション	2名
9月29日	ていんさぐぬ花	身体拘束を行ってはいけない理由、身体拘束の基礎知識	1名
9月29日	ていんさぐぬ花	認知症者とのコミュニケーション法 1 バリデーション	1名
10月1日	ていんさぐぬ花	クレーム・苦情対応	4名
10月2日	ていんさぐぬ花	腰痛予防対策と腰を痛めない介助法	1名
10月3日、4日、5日、8日、9日	ていんさぐぬ花	クレーム・苦情対応	14名
10月11日	ていんさぐぬ花	泡シャワー、アシストスーツ体験	12名
10月28日	ていんさぐぬ花	排泄ケア説明会	3名
11月7日	ていんさぐぬ花	排泄ケアについて	8名
2月17日	ていんさぐぬ花	身体拘束及び高齢者虐待防止について	8名

3月7日	ていんさぐぬ花	緊急時対応・AED 業者:サニクリーン	7名
3月14日	2階フロア	感染症対応BCP研修及び訓練、自然災害BCP研修及び訓練	9名
3月28日	2階フロア 施設内外	感染症対応BCP研修及び訓練、自然災害BCP研修及び訓練	11名

・新人研修・中堅職員研修・管理職研修。

結果⇒新人研修実施(5名)。中堅管理職研修(1名)。管理職研修(1名)。

・認知症介護基礎研修、認知症介護リーダー研修、権利擁護研修、リスクマネジャー養成講座等。

結果⇒一部実施。 1名・リスクマネジャー養成講座 2024。 12/16

・介護福祉士実務者研修等(初任者研修、実務者研修、他)、費用を助成する。

結果⇒実務者研修助成。2名。介護福祉士合格者。3名。

②施設外研修への参加。

沖縄県社会福祉協議会や全国老人福祉施設研究会議、沖縄県や沖縄市、法人等が主催する研修へ参加。

結果⇒実施。

月	場 所	会議・勉強会	参加人数
7月12日	沖縄県総合福祉センター	第12回福祉機器展	1名
10月2日～ 10月4日	東京ビックサイト展示会	第51回福祉機器展	1名
10月22日	沖縄県総合福祉センター	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	1名
10月31日 11月21日	うるま市	介護の寺子屋(介護職の為の生理学入門)	1名
11月9日	沖縄県総合福祉センター	沖縄県老人福祉施設職員研究大会	2名
11月20日	沖縄市産業交流センター	沖縄市高齢者虐待防止講演会	2名
12月19日	沖縄県庁	沖縄県高齢者権利擁護講演会	1名
1月16日	ていんさぐぬ花	実践改善・業務効率化セミナー	1名
2月12日・ 26日、3月 3日19日	ていんさぐぬ花	認知症コミュニケーションアプローチ研修及び・実習	3名
3月13日	はいびすかす	介護現場における生産性向上推進フォーラム	2名

③ハローワーク及び求人情報誌等及び職員紹介等で雇用を図る。又、必要な時間帯のパート採用で見守りが充実した利用者サービスを提供する。他業種からの雇用も図る。

結果⇒実施。

	ハローワーク	人材紹介
介護員(正規)	1	1
介護員(夜勤専属)	2	0
介護パート	1	0
調理員(正規)	1	0
調理員パート	2	0
合計	7	1

(5) 設備管理、備品及び環境の整備

①設備(電気、ガス、消防設備、エレベーター・リフト、厨房内設備、貯水槽清掃・水質検査、建物検査)等の定期点検や施設内外環境整備等を実施。

結果⇒実施

・厨房内食器洗浄機(新規入替リース)。冷蔵庫 1 台(新規・リース、電気設備点検、消防設備点検、昇降機点検、衛生消毒・害虫駆除等清掃実施し安全管理に努めた。

居室及び共用部クーラー水漏れ及び基盤故障など修繕実施。

池ポンプ故障修繕及び池清掃(10 年分泥除去)実施。

貯水槽の給水加圧ポンプ修繕実施。※経年劣化水漏れの為。

②年 1 回の、共用部及び居室等エアコンの清掃実施。

結果⇒実施。(12 月～1 月、3 月)

(6) 経費削減

物価及びエネルギー価格高騰の為、委員会にて経費削減できる箇所を検討し、職員の意識を高め経費削減について周知を図る。

結果⇒居室入り口照明・トイレ照明及び共用部照明、厨房内照明経年劣化の為 LED 照明へ取替え工事を行った。

(7) リスクマネジメント

①身体拘束及び虐待に繋がりがねない行為には十分な注意をはらう。

結果⇒身体拘束及び虐待なし。

②事故及びヒヤリハットが生じた場合、多職種連携にて分析し再発防止に努め、家族へ経緯・説明等、迅速・丁寧に行う。

結果⇒迅速丁寧に対応し、家族へ経緯・説明実施。区市町村へ事故報告実施し、しせつの損害補償保険に対応した。

③要望や苦情は丁寧に聞き取り、予防及び対策等の対応を迅速に行う。ご家族へ日々の状況・状態など、密に細かく報告し信頼関係の構築に努める。

結果⇒電話連絡及び、施設での面会の際は日々の状況など報告し、入居生活での不具合やトラブルがあった場合も細かく説明し、改善出来るよう説明し信頼構築に努めた。

④急変時や災害時の初動は迅速に行う。

結果⇒実施。

⑤各種会議(主任会議、施設内会議、フロア会議、多職種連携会議、厨房会議等)及び各種委員会での報告や事例について、職員へ周知し『報告、連絡、相談』と記録の徹底を図り、PDCAサイクルを活用し業務改善および利用者サービス向上に努める。

結果⇒各フロアへ議事録を配布し情報共有にて、サービス向上に繋げた。

⑥職員のメンタルヘルス対策について、身体面、精神面等、仕事への希望、課題についてワンオンワンミーティングにて相談等、気軽に話せる場を定期的の実施し、ストレスチェックを活用し離職防止及び、職員一人ひとりが笑顔で活躍できる働きやすい職場環境の改善を図る。

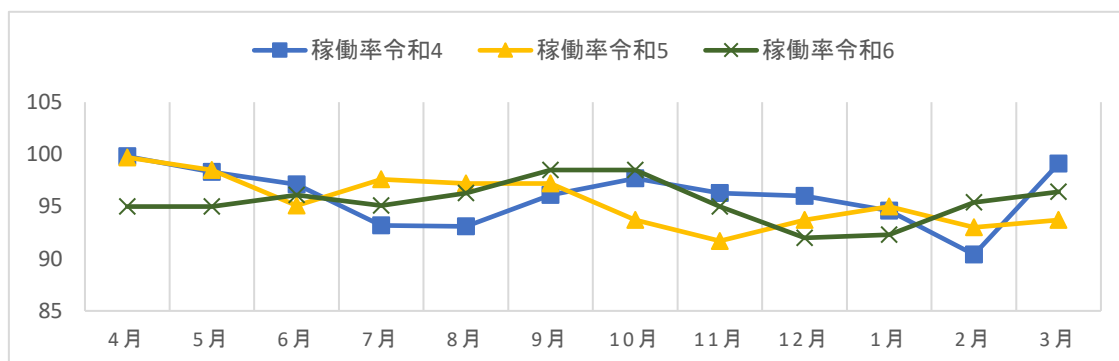
結果⇒職員同士で挨拶が出来るように日々声かけし、少しの時間でも職員と向き合い現況を聞き取りし現場対応やプライベートの相談に応じた。(ケア・業務に関すること、入院、育児、感染症、健康管理、シフト調整等)。

朝礼では、経営理念を唱和し内容について取り組めるよう職員へ浸透を図り、『笑顔』『あいさつ』『思いやり』と全職員が把握し実践できるよう声かけしサービス向上に繋げた。各会議内容をもとに把握し話し合い、改善できるよう職員同士で環境改善に努めた。8月及び3月には職員懇親会(互助会)を開催、職員同士交流し親睦を深めた。

年間実績(上半期)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入居	50名	50名	50名	50名	50名	50名	50名
入院	6名	5名	3名	5名	4名	4名	4名
稼働率	95.0%	95.0%	96.1%	95.1%	96.3%	98.5%	98.5%
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
入居	50名	50名	50名	50名	50名	600名	
入院	5名	9名	7名	6名	3名	61名	
稼働率	95.0%	92.0%	92.3%	95.4%	96.4%	95.5%	

月間利用入居実績前年度比較



	入 居			退 去				
	在宅	施設	計	死亡	医療機関	他施設	居宅	計
4 月	1	0	1	0	1	0	0	1
5 月	1	0	1	0	0	1	0	1
6 月	0	0	0	0	0	0	0	0
7 月	1	0	1	1	0	0	0	1
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	2	0	0	0	1	1	0	2
10 月	0	0	0	0	0	0	0	0
11 月	1	0	1	1	0	0	0	1
12 月	2	0	2	1	1	0	0	2
1 月	2	0	2	2	0	0	0	2
2 月	1	0	1	0	1	0	0	1
3 月	1	0	1	1	1	0	0	2
合計	12	0	12	5	5	2	0	13

入居者の性別、年齢別、要介護度別の状況

(単位:人)

令和6年度	自立		要支援1		要支援2		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
75～79 歳	0	0	0	1	0	1	0	2	2
80～84 歳	0	1	0	1	1	0	1	2	3
85～89 歳	0	0	1	1	0	0	2	0	2
90～94 歳	0	0	1	0	0	0	1	0	1
95～99 歳	0	0	0	0	0	1	0	1	1

100 歳以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	2	3	1	2	4	5	9
平均年齢	0	82	74	87	80	85	77	86	81.5

(単位:人)

令和 6 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		計		総合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
65～69 歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74 歳	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2
75～79 歳	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
80～84 歳	1	2	0	1	1	0	0	1	0	0	2	4	6
85～89 歳	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3
90～94 歳	1	5	1	3	0	3	1	3	0	2	3	16	20
95～99 歳	0	1	0	0	0	4	0	0	1	1	1	6	7
100 歳以上	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2
計	5	10	2	6	1	8	1	4	1	3	10	31	41
平均年齢	87	90	83	90	0	91	0	90	94	92	88	89	90

- ・最大年齢 101 歳、最小年齢 73 歳
- ・平均年齢：男性 88 歳、女性 89 歳、計 90 歳
- ・平均介護度：2.2

会議

月	場 所	会議・勉強会	参加人数
4 月 4 日	ていんさぐぬ花	主任会議	3 名
4 月 5 日	緑樹苑会議室	幹部会議	1 名
4 月 12 日	緑樹苑会議室	課長会議	1 名
4 月 19 日	ていんさぐぬ花	施設内会議	14 名
4 月 24 日	ていんさぐぬ花	ケアカルテ導入説明会議	3 名
4 月 25 日	ていんさぐぬ花	厨房会議	6 名
4 月 26 日	緑樹苑会議室	課長会議	1 名
4 月 26 日	ていんさぐぬ花	3 階フロア会議	7 名
5 月 7 日	ていんさぐぬ花	主任会議	3 名
5 月 10 日	緑樹苑会議室	課長会議	1 名
5 月 15 日	緑樹苑会議室	法人監査	1 名
5 月 17 日	緑樹苑会議室	幹部会議	1 名
5 月 17 日	ていんさぐぬ花	2 階フロア会議	7 名
5 月 24 日	緑樹苑会議室	課長会議	1 名
5 月 24 日	ていんさぐぬ花	3 階フロア会議	7 名
5 月 31 日	緑樹苑会議室	幹部会議	1 名

6月4日	緑樹苑会議室	理事会	2名
6月10日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
6月11日	緑樹苑会議室	互助会会議	1名
6月18日	緑樹苑会議室	評議委員会	1名
6月21日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
6月24日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	6名
6月25日	緑樹苑会議室	監事辞令交付式	1名
6月27日	緑樹苑会議室	施設長会議	1名
7月5日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
7月12日	ていんさぐぬ花	ケアカルテ説明会	5名
7月12日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
7月19日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
8月2日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
8月2日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
8月9日	緑樹苑会議室	課長会議	1名
8月16日	緑樹苑会議室	幹部会議・施設長会議	1名
8月23日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
8月23日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	9名
9月6日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
9月6日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
9月12日	はいびすかす	介護機器説明会	1名
9月20日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
9月20日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	8名
9月27日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
9月27日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	4名
10月17日	ていんさぐぬ花	沖縄県介護保険施設等集団指導	2名
10月18日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	7名
10月25日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
10月25日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
10月30日	ていんさぐぬ花	ケアカルテ説明会	5名
11月1日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
11月5日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
11月15日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	9名
11月20日	ていんさぐぬ花	施設長会議	6名
11月25日	ていんさぐぬ花	臨時フロア会議	9名
11月29日	ていんさぐぬ花	研修会議・幹部会議	3名
11月30日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
12月6日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
12月20日	緑樹苑会議室	幹部会議、施設長会議	1名
12月20日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	7名
12月24日	緑樹苑相談室	ケアカルテ進捗状況ヒアリング会議	1名
12月27日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	8名
1月6日	緑樹苑会議室	幹部会議、施設長会議	1名
1月10日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
1月17日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名

1月24日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
1月24日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	7名
2月6日	緑樹苑相談室	収支ヒアリング会議	1名
2月7日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
2月7日	ていんさぐぬ花	主任会議	3名
2月27日	ていんさぐぬ花	2階フロア会議	9名
2月28日	緑樹苑会議室	課長等会議	2名
2月28日	ていんさぐぬ花	3階フロア会議	4名
3月7日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名
3月7日	ていんさぐぬ花	主任会議	4名
3月11日	緑樹苑会議室	理事会	1名
3月14日	緑樹苑会議室	課長等会議	1名
3月21日	緑樹苑会議室	幹部会議	1名

研修

月	場 所	研修・勉強会名	参加人数
4月23日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
5月27日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
6月25日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
9月25日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
10月28日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
11月26日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
12月23日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
1月29日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
2月26日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名
3月26日	緑樹苑会議室	月次報告勉強会	1名

安全衛生委員会

月	場 所	会議、研修名	参加人数
4月18日	緑樹苑会議室	令和6年度委員会について	1名
5月16日	はいびすかす	令和5年度ストレスチェック実施について (施設巡視はいびすかす)	1名
6月20日	緑樹苑会議室	熱中症対策について	1名
7月18日	緑樹苑会議室	治療と仕事の両立支援について	0名
8月17日	緑樹苑会議室	ストレスチェック集団分析結果の見方について	1名
9月19日	緑樹苑会議室	ストレスチェック集団分析結果報告、有休消化について	1名
10月17日	緑樹苑会議室	セクハラ、パワハラについて	1名
11月21日	緑樹苑会議室	働きやすい職場環境について	1名
12月19日	緑樹苑会議室	腰痛予防、ていんさぐぬ花巡視	1名
1月16日	緑樹苑会議室	令和7年度 緑樹会健康診断について 特養巡視	0名
2月20日	緑樹苑会議室	令和7年度月別審議事項(案)について	1名

3 月 18 日	緑樹苑会議室	健康診断ストレスチェックについて デイサービス巡視	1 名
----------	--------	------------------------------	-----

行事実施状況

月	行事・イベント名	参加人数
4 月	訓示及び辞令交付式（1 日）	2 人
	浜下り(14 日)（中城モール）	14 人
	誕生会(18 日)	6 人
	防災訓練(19 日)	24 人
	誕生会(20 日)	6 人
	散髪(25 日)	3 人
5 月	母の日祝い会（12 日）	50 人
	法人監査（15 日）	1 人
	防災訓練(17 日)	31 人
	誕生会（18 日）	2 人
6 月	誕生会（15 日）	3 人
	父の日祝い会（16 日）	47 人
	散髪（22 日）	18 人
7 月	七夕会（7 日）	46 人
8 月	誕生会（15 日）	3 人
	散髪（22 日）	18 人
9 月	誕生会（14 日）	1 人
	敬老会（17 日）	43 人
	散髪（18 日）2 階フロア	20 人
10 月	運動会（10 日）	45 人
	誕生会(17 日)	7 人
	不在者投票(24 日) 衆議院議員総選挙	3 人
	散髪(30 日)	19 人
11 月	誕生会（14 日）	7 人
	散髪（20 日）	15 人
	秋のお茶会(22 日)	44 人
12 月	建築物等定期検査(13 日)	1 人
	散髪(18 日)	15 人
	クリスマス忘年会(25 日)	35 人
	利用者健康診断(26 日)	33 人
1 月	新春お茶会（10 日）	45 人
	防災訓練（20 日）	45 人
	散髪(22 日)	17 人
	不在者投票(23 日) 沖縄市長選挙及び市議会議員補欠選挙	3 人
	誕生会(23 日)	3 人
2 月	誕生会(20 日)	5 人
	防災訓練(21 日)	48 人

	散髪(26 日)	22 人
3 月	不在者投票(5 日) 沖縄県議会議員補欠選挙	3 人
	ひなまつりお茶会 (5 日)	35 人
	散髪(19 日)	15 人
	誕生会(20 日)	6 人
	防災訓練(21 日)	47 人
	定年退職者辞令交付式(28 日)	2 人

レク活動

クラブ名	回数	参加人数 (1 回当たり)
歌声	19	12
映写会	190	11
民舞	31	12
塗り絵	19	13
お茶会	3	41
習字	2	13
輪投げ	17	12
手工芸	9	13
スカッシュボール	4	14
体操	373	11
脳トレ	38	12

各種委員会

月	場 所	会議名	参加人数
4 月 6 日	ていんさぐぬ花	行事委員会	5 名
5 月 22 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	5 名
5 月 22 日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	5 名
5 月 30 日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3 名
7 月 1 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	6 名
7 月 2 日	ていんさぐぬ花	行事委員会	6 名
7 月 22 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	6 名
8 月 14 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	5 名
8 月 15 日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3 名
8 月 23 日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	4 名
8 月 23 日	ていんさぐぬ花	リスクマネジメント委員会	4 名
9 月 3 日	緑樹苑相談室	生産性向上委員会	1 名
9 月 13 日	ていんさぐぬ花	生産性向上委員会	3 名
9 月 20 日	ていんさぐぬ花	生産性向上委員会	5 名
9 月 30 日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3 名
10 月 7 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	7 名
10 月 31 日	ていんさぐぬ花	虐待防止委員会	6 名
10 月 31 日	ていんさぐぬ花	身体的拘束等適正化検討委員会	6 名
10 月 31 日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	6 名

11月1日	ていんさぐぬ花	行事委員会	3名
11月8日	県総合福祉センター	沖縄県老人福祉施設職員研究大会運営委員会	2名
11月15日	ていんさぐぬ花	行事委員会	6名
12月4日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	4名
12月6日	ていんさぐぬ花	行事委員会	4名
12月20日	ていんさぐぬ花	行事委員会	7名
12月27日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	7名
1月6日	ていんさぐぬ花	行事委員会	5名
1月15日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	6名
1月17日	ていんさぐぬ花	防災委員会	7名
1月31日	ていんさぐぬ花	虐待防止委員会	6名
1月31日	ていんさぐぬ花	身体的拘束適正化検討委員会	8名
2月20日	ていんさぐぬ花	防災委員会	5名
3月3日	ていんさぐぬ花	感染症予防対策委員会	7名
3月19日	ていんさぐぬ花	防災委員会	6名

事故報告について

利用者一人一人に目を向け、細かく対応できるよう会議や勉強会・個別研修(認知症高齢者とのコミュニケーション、ユマニチュード)にて対応など周知した。ご家族へは事故報告等、日々の状況を報告するよう心掛け、多職種職員が電話連絡時ご家族との日々のケアの状況など情報共有し報告できた。居室にて人感センサーの台数を増やし対応しましたが、準夜・深夜時の夜間帯2～3か所コールが重なることもあり優先順位をつけて対応せざるを得なかった。帰宅願望や、昼夜逆転にて不穏行動のある利用者の対応が多々あり、夜間に大声など介護拒否等もあり、現場に間に合わない状況では転倒リスクが多々あった。看護師にて主治医へ情報提供しお薬の調整を図り、不穏傾向の場合は、日中食堂ホールにて諸活動へ参加して頂き様子観察実施した。職員ひとり一人が責任を持って家族への連絡報告し、事例について多職種連携し話し合う事で疑問や問題点が抽出でき改善に向け取り組んだ。県市町村行政機関へ事故報告し、しせつの損害補償保険にて対応した。

